

## 原子力発電所の環境放射能測定結果（平成26年度第1四半期）について

平成26年 9月 9日

東京電力(株)

福島第一廃炉推進カンパニー福島第一原子力発電所

福島第二原子力発電所

東京電力(株)福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所が、平成26年度第1四半期(4～6月)に実施した原子力発電所周辺の環境放射能測定結果は以下に示すとおりであり、福島第一原子力発電所の事故による影響を受けた空間線量率や環境試料については、事故前の測定値の範囲を上回っておりますが、日数の経過とともに減少する傾向にありました。

## 1 空間放射線

## (1) 空間線量率

福島第一原子力発電所が8地点及び福島第二原子力発電所が7地点でモニタリングポスト(電離箱検出器またはNaIシンチレーション検出器)により発電所敷地境界付近の空間線量率を常時測定しました。

各測定地点の月間平均値の範囲は $0.257\mu\text{Gy/h}$ (福島第二原子力発電所南側のMP7)～ $4.893\mu\text{Gy/h}$ (福島第一原子力発電所北側のMP3)、最大値の範囲は $0.275\mu\text{Gy/h}$ (福島第二原子力発電所南側のMP7)～ $5.084\mu\text{Gy/h}$ (福島第一原子力発電所北側のMP3)であり、共に全ての地点で震災前の過去の測定値の範囲を大きく上回っており、各月毎の測定値に変動はみられたが、期の経過とともに減少する傾向にありました。

※ $\text{Gy}$ (グレイ)  $\doteq$   $\text{Sv}$ (シーベルト)

## (2) 空間積算線量

福島第一原子力発電所が21地点及び福島第二原子力発電所が18地点で蛍光ガラス線量計により発電所敷地境界付近及び発電所周辺の近隣町の空間積算線量を測定しました。

90日換算値は $0.41\text{mGy}$ (浪江町北棚塩総合集会所)～ $35.00\text{mGy}$ (福島第一原子力発電所南側のMP8)であり、全ての地点で震災前の過去の測定値の範囲を大きく上回りましたが、期の経過とともに減少する傾向にありました。

## 2 環境試料

## (1) 大気浮遊じん

福島第二原子力発電所がダストモニタにより発電所の南北敷地境界付近の2地点(MP1及びMP7)で全アルファ放射能及び全ベータ放射能の連続測定を実施しました。

各測定地点の全アルファ放射能及び全ベータ放射能の月間平均値は、全アルファ放射能が  $0.014 \text{ Bq/m}^3$  (福島第二原子力発電所北側MP-1・5月)  $\sim 0.022 \text{ Bq/m}^3$  (福島第二原子力発電所南側MP-7・4月) で、全ベータ放射能が、 $0.031 \text{ Bq/m}^3$  (福島第二原子力発電所北側MP-1・5月)  $\sim 0.040 \text{ Bq/m}^3$  (福島第二原子力発電所南側MP-7・4月) で、事故前の過去の測定値と同程度でした。

また、各測定地点の全アルファ放射能及び全ベータ放射能の月間最大値は、全アルファ放射能が  $0.065 \text{ Bq/m}^3$  (福島第二原子力発電所北側MP-1・5月)  $\sim 0.095 \text{ Bq/m}^3$  (福島第二原子力発電所南側MP-7・6月) で、全ベータ放射能が  $0.10 \text{ Bq/m}^3$  (福島第二原子力発電所北側MP-1・5月)  $\sim 0.13 \text{ Bq/m}^3$  (福島第二原子力発電所北側MP-7・6月) であり、事故前の過去の測定値と同程度でした。

なお、福島第二原子力発電所北側MP-1地点の全ベータ及び全アルファ放射能の相関崩れがありました。原因として、発電所北側MP-1近傍及び風上方向地点からの塵埃の舞い上がりにより、放射能が付着したと推定しました。

#### (2) 核種濃度 (ガンマ線放出核種)

大気浮遊じん、陸土、海水、海底沈積物、指標植物 (松葉) について、福島第一原子力発電所で 17 試料、福島第二原子力発電所で 17 試料の調査を実施しました。

大気浮遊じん、陸土、海水、海底沈積物、指標植物 (松葉) のすべての試料から、事故前の過去の測定値を上回るセシウム-137 が検出されました。海水の一部を除く全ての試料から、事故前の過去の測定値を上回るセシウム-134 が検出されました。

福島第二原子力発電所北側MP-1地点5月分核種濃度の上昇がありました。上昇原因として、発電所北側MP-1近傍及び風上方向地点からの塵埃の舞い上がりにより、放射能が付着したと推定しました。

#### (3) 核種濃度 (トリチウム)

福島第一原子力発電所の 3 試料及び福島第二原子力発電所の 3 試料の海水について、調査を実施しました。

福島第一原子力発電所の海水 3 試料のうち 2 試料からトリチウムが検出されており、事故前の過去の測定値の範囲を上回りました。

#### (4) 核種分析 (ストロンチウム-89, 90)

陸土、海水、海底沈積物について、福島第一原子力発電所で 9 試料及び福島第二原子力発電所で 5 試料の調査を実施しました。

海底沈積物の一部を除く全ての試料から、事故前の過去の測定値を上回るストロンチウム-90 が検出されました。ストロンチウム-89 については、検出されませんでした。

以上

# 原子力発電所の環境放射能測定結果

(平成26年度 第1四半期)

(案)

東京電力株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所

福島第二原子力発電所

# 目 次

## 測定結果の概要

1. 空間放射線	
(1) 空間線量率	1
(2) 空間積算線量	2
2. 環境試料	
(1) 大気浮遊じん	3
(2) 環境試料の核種濃度	4

## 測定結果

### 福島第一原子力発電所

1 測定項目	8
2 測定方法	10
3 測定結果	11
(1) 空間放射線	11
(2) 環境試料	13

### 福島第二原子力発電所

1 測定項目	15
2 測定方法	17
3 測定結果	18
(1) 空間放射線	18
(2) 環境試料	20

## 添付資料

原子炉運転状況、放射性廃棄物管理状況及び試料採取時の付帯データ	22
福島第一原子力発電所	
原子炉運転状況	23
放射性廃棄物管理状況	24
試料採取時の付帯データ	27
福島第二原子力発電所	
原子炉運転状況	30
放射性廃棄物管理状況	31
試料採取時の付帯データ	33
空間線量率等の変動グラフ	36

平成26年度第1四半期（平成26年4月～6月）の測定結果の概要

1. 空間放射線

(1) 空間線量率

東京電力（株）福島第一原子力発電所敷地境界8地点、福島第二原子力発電所敷地境界7地点で電離箱検出器により空間線量率を常時測定しました。  
各地点の測定結果は以下のとおりです。

ア. 月間平均値

各測定地点における月間平均値は、全ての地点において福島第一原子力発電所の事故（以下「事故」という。）の影響により、依然として事故前の月間平均値を上回っていますが、全体として日数の経過と共に減少する傾向にありました。

空間線量率の月間平均値

(単位：nGy/h)

機関名	測定地点	月間平均値			過去の月間平均値	
		4月	5月	6月	事故後	事故前
福島第一原子力発電所	8	1,770 ～ 4,893	1,580 ～ 4,722	1,545 ～ 4,523	1,785 ～ 204,134	31 ～ 45
福島第二原子力発電所	7	279 ～ 767	268 ～ 740	257 ～ 727	274 ～ 13,695	37 ～ 49

(注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、  
事故前：平成13年度から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。  
事故後：平成22年度第4四半期（平成23年3月11日）から平成25年度第4四半期まで。

イ. 1時間値の変動状況

各測定地点における最大値は、事故の影響により、依然として事故前の月間最大値を上回っています。

空間線量率の最大値（1時間値）

(単位：nGy/h)

機関名	測定地点	月間最大値			過去の月間最大値	
		4月	5月	6月	事故後	事故前
福島第一原子力発電所	8	2,004 ～ 5,084	1,637 ～ 4,951	1,609 ～ 4,862	1,843 ～ 327,467	120 ～ 188
福島第二原子力発電所	7	289 ～ 795	286 ～ 772	275 ～ 761	314 ～ 182,000	79 ～ 162

(注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、  
事故前：平成13年度から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。  
事故後：平成22年度第4四半期（平成23年3月11日）から平成25年度第4四半期まで。

(2) 空間積算線量

今期間は、平成26年4月17日から平成26年7月10日までの84日間で、福島第一原子力発電所21地点、福島第二原子力発電所18地点で蛍光ガラス線量計（RPLD）により空気中の放射線量を測定した。90日換算値は、全ての地点において事故前の最大値を大きく上回る値が観測された。

なお、事故以降は、期の経過とともに減少傾向にあった。

空間積算線量の90日換算値

単位：(mGy/90日)

機関名	測定地点	積算線量 (平成26年4月17日～ 26年7月10日)	前回の測定値 (平成26年1月16日～ 26年4月17日)	過去の測定値	
				事故後	事故前
福島第一 原子力発電所	21	0.41 ～ 35.00	0.42 ～ 35.66	0.42 ～ 312.25	0.10 ～ 0.16
福島第二 原子力発電所	18	0.43 ～ 3.24	0.44 ～ 3.34	0.44 ～ 12.15	0.11 ～ 0.15

(注) 1. 「過去の測定値」は、

事故前：測定装置を蛍光ガラス線量計に変更したため平成15年度～平成22年度第3四半期まで。

事故後：平成22年度第4四半期～平成25年度第4四半期まで。

## 2 環境試料

### (1) 大気浮遊じん

福島第二原子力発電所のダストモニタ（2地点）は、東日本大震災による津波で流失したため、平成24年度より測定器を更新して、大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能の連続測定を実施しました。

福島第二原子力発電所北側MP-1地点の全アルファ及びベータ放射能の相関崩れがありました。原因として、MP-1近傍及び風上方向地点からの塵埃の舞い上がりにより、放射能が付着したと推定した。

各地点の測定値は、以下のとおりです。

#### ア. 月間平均値

福島第二原子力発電所の月間平均値は、いずれも事故前の月間平均値の範囲内でした。

大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能の月間平均値

(単位: Bq/m<sup>3</sup>)

機関名	項目	測定地点	月間平均値			過去の月間平均値	
			4月	5月	6月	事故後	事故前
福島第二原子力発電所	全アルファ放射能	2	0.021~0.022	0.014~0.015	0.017~0.018	0.008~0.035	0.005~0.030
	全ベータ放射能	2	0.039~0.040	0.030~0.031	0.032~0.034	0.021~0.061	0.019~0.058

(注) 「過去の測定値の範囲」は、

事故前：平成13年9月から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。

事故後：機器更新後の平成24年度から平成25年度第4四半期まで。

#### イ. 変動状況

福島第二原子力発電所の各地点の最大値は、事故前の最大値を下回りました。

大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能の最大値

(単位: Bq/m<sup>3</sup>)

機関名	項目	測定地点	最大値			過去の最大値	
			4月	5月	6月	事故後	事故前
福島第二原子力発電所	全アルファ放射能	2	0.079~0.081	0.065~0.074	0.082~0.095	0.14	0.20
	全ベータ放射能	2	0.12	0.10~0.11	0.12~0.13	0.23	0.29

(注) 「過去の測定値の範囲」は、

事故前：平成13年9月から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。

事故後：機器更新後の平成24年度から平成25年度第4四半期まで。

(2) 環境試料の核種濃度

福島第一原子力発電所が今期間に測定した環境試料は、大気浮遊じんが2地点6試料、陸土4地点4試料、海水が3地点3試料、海底沈積物が2地点2試料、松葉が2地点2試料の5品目で合計17試料、福島第二原子力発電所が測定した環境試料は、大気浮遊じんが2地点6試料、陸土4地点4試料、海水が3地点3試料、海底沈積物が2地点2試料、松葉が2地点2試料の5品目で合計17試料でした。

福島第一原子力発電所測定分の環境試料の全てにおいて、セシウム-134、セシウム-137が、検出された。  
また、海水のトリチウム、ストロンチウム-90、海底沈積物のストロンチウム-90についても検出された。

「福島第一原子力発電所測定分」 環境試料中のガンマ線放出核種濃度

試料名	試料数	ガンマ線放出核種	単位	測定値	過去の測定値	
					事故後	事故前
大気浮遊じん	6	セシウム-134	mBq/m <sup>3</sup>	4.1 ~ 16	1.7 ~ 88	ND
		セシウム-137		10 ~ 45	2.6 ~ 200	ND
陸土	4	セシウム-134	Bq/kg乾	1,500 ~ 110,000	1,400 ~ 330,000	ND
		セシウム-137		4,300 ~ 290,000	2,600 ~ 680,000	2.4 ~ 28
海水	3	セシウム-134	Bq/l	0.24 ~ 3.7	ND ~ 76	ND
		セシウム-137		0.63 ~ 11	ND ~ 110	ND ~ 0.003
海底沈積物	2	セシウム-134	Bq/kg乾	110 ~ 140	110 ~ 1,200	ND
		セシウム-137		300 ~ 390	210 ~ 1,800	ND ~ 1.2
松葉	2	セシウム-134	Bq/kg生	1,400 ~ 1,700	890 ~ 220,000	ND
		セシウム-137		3,400 ~ 4,700	1,600 ~ 310,000	ND ~ 0.14

- (注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、  
事故前：平成13年度から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。  
事故後：平成22年度第4四半期（平成23年3月11日）から平成25年度第4四半期まで。  
2. NDは検出限界未満。  
「ND～(数値)」とあるのは、検出限界未満の試料と検出限界を超えて検出された試料とがあることを示し、検出された試料の中での最大値を右側に表記した。  
3. 「試料数」は採取した地点数の合計である。

「福島第一原子力発電所測定分」 環境試料中のトリチウム濃度

試料名	試料数	単位	測定値	過去の測定値	
				事故後	事故前
海水	3	Bq/l	ND ~ 71	ND ~ 180	ND ~ 0.67

- (注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、  
事故前：平成13年度から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。  
事故後：平成22年度第4四半期（平成23年3月11日）から平成25年度第4四半期まで。  
2. NDは検出限界未満。  
「ND～(数値)」とあるのは、検出限界未満の試料と検出限界を超えて検出された試料とがあることを示し、検出された試料の中での最大値を右側に表記した。  
3. 「試料数」は採取した地点数の合計である。



「福島第一原子力発電所測定分」 環境試料中のストロンチウム濃度

試料名	試料数	核種	単位	測定値	過去の測定値	
					事故後	事故前
陸 土	4	ストロンチウム-89	Bq/kg乾	ND	ND	—
		ストロンチウム-90		7.4 ~ 210	4.1 ~ 160	0.77 ~ 2.1
海 水	3	ストロンチウム-89	Bq/l	ND	ND	—
		ストロンチウム-90		0.031 ~ 21	0.005 ~ 21	0.001 ~ 0.003
海底沈積物	2	ストロンチウム-89	Bq/kg乾	ND	ND	—
		ストロンチウム-90		4.1 ~ 9.1	19 ~ 22	ND ~ 0.17

(注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、  
 事故前：平成13年度から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。  
 事故後：平成22年度第4四半期（平成23年3月11日）から平成25年度第4四半期まで。

福島第二原子力発電所測定分の環境試料のうち、大気浮遊じん、陸土、海底沈積物、松葉の4品目合計14試料から、セシウム-134が検出された。

また、環境試料の全てにおいて、セシウム-137が検出され、海水からは、ストロンチウム-90が検出された。

発電所北側MP-1地点5月分核種濃度の、上昇がありました。

上昇原因として、発電所北側MP-1近傍及び風上方向地点からの塵埃の舞い上がりにより、放射能が付着したと推定した。

「福島第二原子力発電所測定分」 環境試料中のガンマ線放出核種濃度

試料名	試料数	ガンマ線放出核種	単位	測定値	過去の測定値	
					事故後	事故前
大気浮遊じん	6	セシウム-134	mBq/m <sup>3</sup>	0.010 ~ 0.070	ND ~ 0.75	ND
		セシウム-137		0.030 ~ 0.20	ND ~ 1.1	ND
陸土	4	セシウム-134	Bq/kg乾	970 ~ 2,800	490 ~ 9,000	ND
		セシウム-137		2,700 ~ 7,900	900 ~ 15,000	1.1 ~ 15
海水	3	セシウム-134	Bq/l	ND	ND ~ 0.36	ND
		セシウム-137		0.062 ~ 0.079	0.079 ~ 1.1	ND ~ 0.003
海底沈積物	2	セシウム-134	Bq/kg乾	41 ~ 60	41 ~ 200	ND
		セシウム-137		120 ~ 170	92 ~ 360	ND ~ 1.5
松葉	2	セシウム-134	Bq/kg生	57 ~ 120	60 ~ 17,160	ND
		セシウム-137		160 ~ 330	130 ~ 22,840	ND ~ 0.060

- (注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、  
 事故前：平成13年度から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。  
 事故後：平成22年度第4四半期（平成23年3月11日）から平成25年度第4四半期まで。
2. NDは検出限界未満。  
 「ND～(数値)」とあるのは、検出限界未満の試料と検出限界を超えて検出された試料とがあることを示し、検出された試料の中での最大値を右側に表記した。
3. 「試料数」は採取した地点数の合計である。

「福島第二原子力発電所測定分」 環境試料中のトリチウム濃度

試料名	試料数	単位	測定値	過去の測定値	
				事故後	事故前
海水	3	Bq/l	ND	ND	ND ~ 0.77

- (注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、  
 事故前：平成13年度から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。  
 事故後：平成22年度第4四半期（平成23年3月11日）から平成25年度第4四半期まで。
2. NDは検出限界未満。  
 「ND～(数値)」とあるのは、検出限界未満の試料と検出限界を超えて検出された試料とがあることを示し、検出された試料の中での最大値を右側に表記した。
3. 「試料数」は採取した地点数の合計である。

「福島第二原子力発電所測定分」 環境試料中のストロンチウム濃度

試料名	試料数	核種	単位	測定値	過去の測定値	
					事故後	事故前
海水	3	ストロンチウム-89	Bq/l	ND	ND	—
		ストロンチウム-90		0.003 ~ 0.005	0.011 ~ 0.014	0.001 ~ 0.003
海底沈積物	2	ストロンチウム-89	Bq/kg乾	ND	ND	—
		ストロンチウム-90		ND	ND	ND ~ 0.16

(注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、  
 事故前：平成13年度から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。  
 事故後：平成22年度第4四半期（平成23年3月11日）から平成25年度第4四半期まで。

# 福島第一原子力発電所測定分

(平成26年 4月～平成26年 6月)

1 測定項目

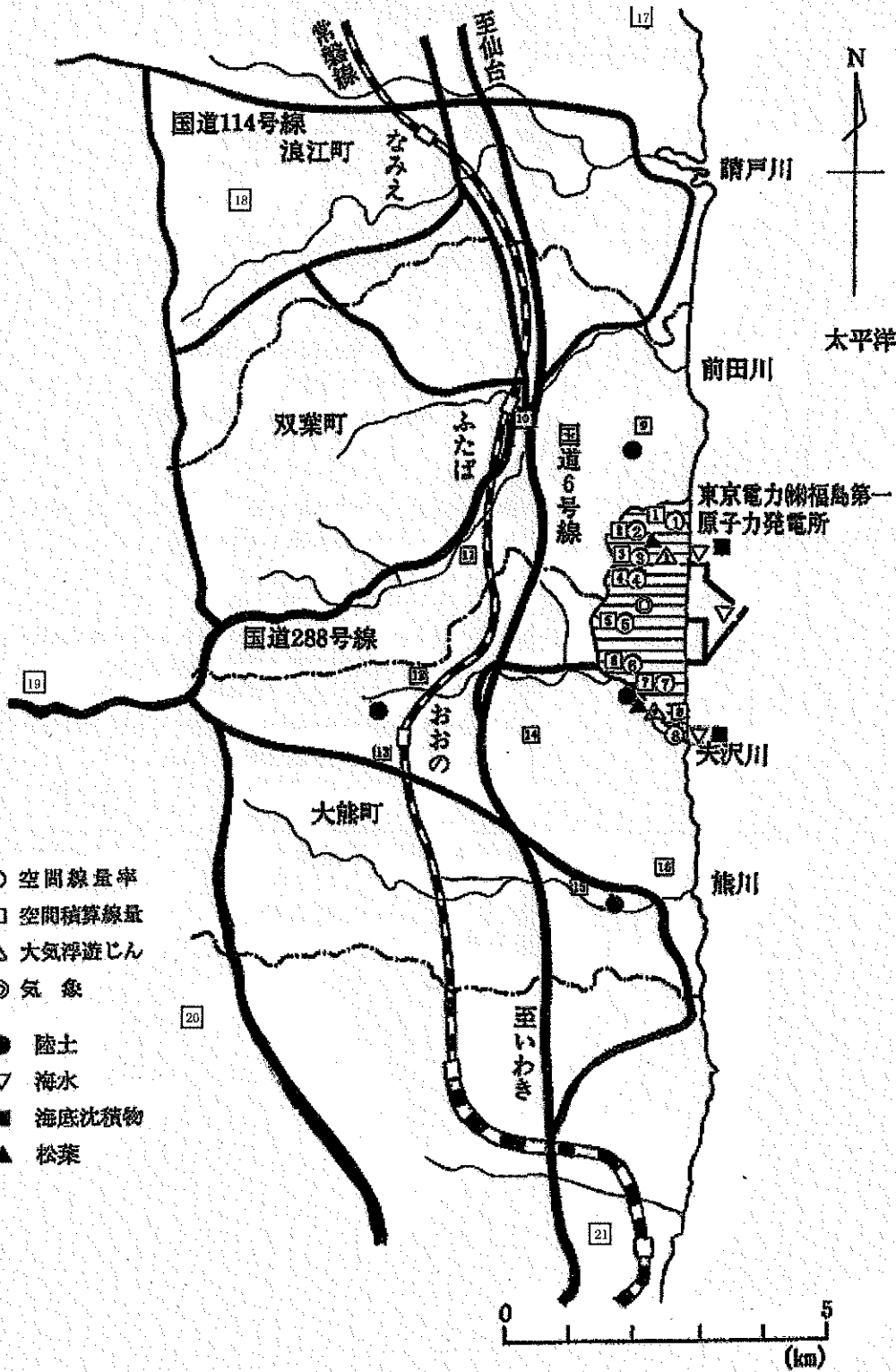
(1) 空間放射線

項 目	地点数	測 定 頻 度	実施機関
空間線量率	8	連 続	東京電力(株)福島第一廃炉推進カンパニー 福島第一原子力発電所
空間積算線量	21	3 カ月積算	

(2) 環境試料

区 分	試 料 名	地点数	採取頻度	採取回数 (今期)	測 定 試 料 数								実施機関	
					$\gamma$	$^3\text{H}$	$^{89}\text{Sr}$	$^{90}\text{Sr}$	$^{238}\text{Pu}$	$^{239+240}\text{Pu}$	$^{241}\text{Am}$	$^{244}\text{Cm}$		
大気浮遊じん	大気浮遊じん	2	毎月	3	6									東京電力(株) 福島第一廃炉 推進カンパニー 福島第一原子力 発電所
陸 土	陸 土	4	年2回	1	4		4	4						
海 水	海 水	3	年4回	1	3	3	3	3						
海底沈積物	海底沈積物	2	年4回	1	2		2	2						
指標植物	松 葉	2	年4回	1	2									

# 福島第一原子力発電所 環境モニタリング地点図



2 測定方法

測定項目		測定装置	測定方法
空間放射線	空間線量率	モニタリングポスト	検出器：アルゴンガス封入式球形電離箱 (高純度アルゴンガス4気圧140) 測定位置：地表上約1.6m 校正線源：Ra-226
	空間積算線量	蛍光ガラス線量計	測定法：文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法」 (平成14年制定) 検出器：蛍光ガラス線量計，旭テクノグラス SC-1 測定器：旭テクノグラス FGD-202 測定位置：地表上約1m 校正線源：Cs-137
環境試料	核種濃度	Ge半導体検出装置	測定法：文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(平成4年改訂) 大気浮遊じんは1カ月の集じんろ紙をU8容器に入れ測定。 陸土・海底沈積物・指標植物(松葉)は，生試料により測定。 海水は，直接2ℓマリネリ容器に入れ測定。 海水のトリチウムは蒸留後測定。
		ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置	測定器： (環境管理棟) Ge半導体検出器 (ORTEC GEM28-S型 他2台) 波高分析器 (SEIKO EG&G 7600シリーズ(4096ch) 3台) ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置 (Aloka LSC-LB5B) (5/6ホットボ) Ge半導体検出器 (ORTEC GEM15型 他4台) 波高分析器 (SEIKO EG&G 7600シリーズ(4096ch) 3台) 波高分析器 (SEIKO EG&G MCA-7シリーズ(4096ch) 2台) (化学分析棟) Ge半導体検出器 (ORTEC GEM35-76-LB-A-S型 他9台) 波高分析器 (SEIKO EG&G MCA-7シリーズ(4096ch) 10台) ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置 (Aloka LSC-LB7)
	ストロンチウム-89 ストロンチウム-90濃度	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	測定法：文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」 のうちイオン交換法(平成15年改訂) 測定器：Aloka LBC-4202B 校正線源：Sr-89, 90

3 測定結果

(1) 空間放射線

ア 空間線量率

測定年月	平成26年 4月				平成26年 5月				平成26年 6月				
	空間線量率				空間線量率				空間線量率				
	測定値	平均値	最大値	測定時間	備考	平均値	最大値	測定時間	備考	平均値	最大値	測定時間	備考
No.	地点名	(nGy/h)	(nGy/h)	(h)	(欠測理由/時間)	(nGy/h)	(nGy/h)	(h)	(欠測理由/時間)	(nGy/h)	(nGy/h)	(h)	(欠測理由/時間)
1	MP-1	2,408	2,470	720		2,348	2,423	744		2,272	2,382	720	
2	MP-2	4,368	4,494	720		4,214	4,394	744		4,068	4,332	720	
3	MP-3	4,893	5,084	720		4,722	4,951	744		4,523	4,862	720	
4	MP-4	4,383	4,519	720		4,211	4,378	744		4,024	4,267	720	
5	MP-5	4,619	4,816	720		4,444	4,688	744		4,248	4,614	720	
6	MP-6	1,770	2,004	720		1,580	1,637	744		1,545	1,609	720	
7	MP-7	2,435	2,503	720		2,291	2,353	744		2,203	2,289	720	
8	MP-8	2,732	2,788	718	降雨に伴う通信異常	2,648	2,694	744		2,487	2,649	720	

注) 空間線量率の測定は高線量率モニタリングポストにより行いました。

イ 空間積算線量

測定期間		平成26年4月17日～平成26年7月10日		
No.	測定項目 地点名	積算線量 ( mGy )	測定日数 ( 日 )	備考
1	M P - 1	2.82 ( 3.02 )	84	
2	M P - 2	5.49 ( 5.89 )	84	
3	M P - 3	6.79 ( 7.28 )	84	
4	M P - 4	3.66 ( 3.93 )	84	
5	M P - 5	5.90 ( 6.32 )	84	
6	M P - 6	3.53 ( 3.78 )	84	
7	M P - 7	22.77 ( 24.40 )	84	
8	M P - 8	32.66 ( 35.00 )	84	
9	双葉町郡山屋の上	2.99 ( 3.20 )	84	
10	双葉町長塚	2.11 ( 2.26 )	84	
11	双葉町山田西郷内	4.29 ( 4.60 )	84	
12	大熊町夫沢中奥谷	30.42 ( 32.61 )	84	
13	大熊町役場	6.81 ( 7.29 )	84	
14	大熊町小入野東大和久	20.48 ( 21.92 )	84	
15	大熊町熊川緑ヶ丘	19.47 ( 20.84 )	84	
16	大熊町熊川久麻川	14.13 ( 15.13 )	84	
17	浪江町北棚塩総合集会所	0.39 ( 0.41 )	84	
18	浪江町川添中上ノ原	1.64 ( 1.76 )	84	
19	大熊町野上湯の神	1.60 ( 1.72 )	84	
20	富岡町新福島変電所	1.98 ( 2.12 )	84	
21	富岡町東京電力西原寮	1.73 ( 1.85 )	84	

(注) ( ) 内は、90日換算値。



(2) 環境試料

ア 大気浮遊じんの核種濃度

No.	地点名	採取期間	濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )												
			<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce		
1	MP-3	H26. 4. 1 ~ H26. 4. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	15	39	ND
		H26. 5. 1 ~ H26. 5. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	11	30	ND
		H26. 6. 1 ~ H26. 6. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	16	45	ND
2	MP-8	H26. 4. 1 ~ H26. 4. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	11	27	ND
		H26. 5. 1 ~ H26. 5. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	4.1	10	ND
		H26. 6. 1 ~ H26. 6. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	4.2	12	ND

イ 環境試料中の核種濃度

試料名	種類又は部位	採取及び採取地点番号	採年月日	取単位	核種														天然核種						
					<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>56</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>139</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>140</sup> Ce	<sup>3</sup> H	<sup>131</sup> I	<sup>89</sup> Sr		<sup>90</sup> Sr	<sup>238</sup> Pu	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am	<sup>244</sup> Cm	
陸	土表	1 敷地内	H26. 5. 20	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
		2 大熊町下野 <sup>ノノ</sup>	H26. 5. 20		110,000	290,000	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		3 大熊町龍川 <sup>ノノ</sup>	H26. 5. 20		4,900	13,000	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		4 双葉町郡山 <sup>ノノ</sup>	H26. 5. 20		25,000	68,000	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
海	水面水	1 取水口	H26. 5. 13	Bq/l	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
		2 南放水口付近	H26. 5. 13		0.24	0.63	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
		3 北放水口付近	H26. 5. 13		0.36	1.0	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
海底沈積物	土	1 南放水口付近	H26. 5. 13	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
		2 北放水口付近	H26. 5. 13		140	390	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
松	葉葉	1 M.P-3付近	H26. 5. 15	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
		2 環境管理棟付近	H26. 5. 15		1,400	3,400	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		

(注) 「ND」は検出限界未満、「/」は対象外核種である。

## 福島第二原子力発電所測定分

(平成26年4月～平成26年6月)

### 1 測定項目

#### (1) 空間放射線

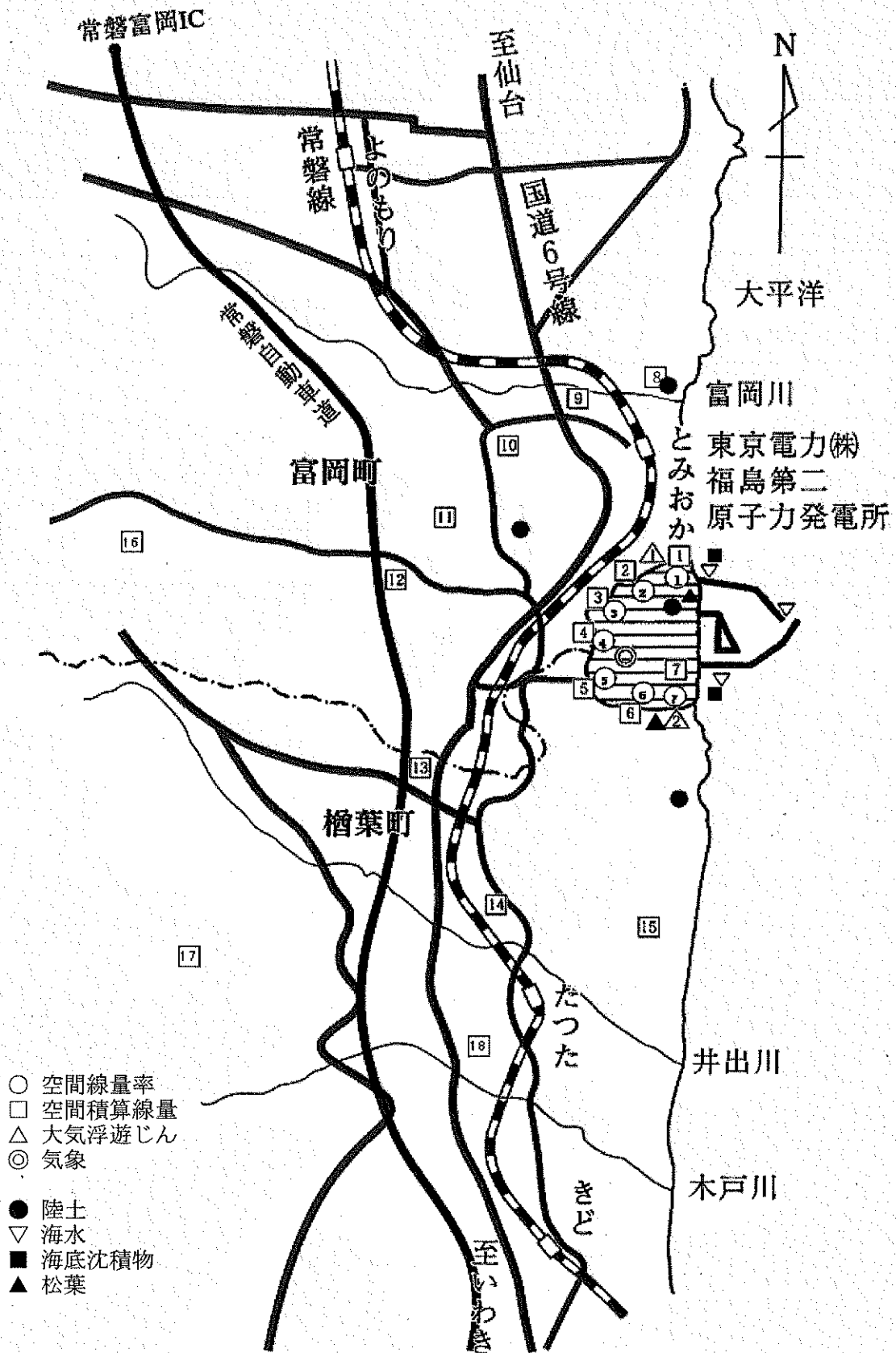
項目	地点数	測定頻度	実施機関
空間線量率	7	連続	東京電力(株) 福島第二原子力発電所
空間積算線量	18	3ヵ月積算	

#### (2) 環境試料

区分	試料名	地点数	採取頻度	採取回数 (今期)	測定試料数								実施機関	
					$\gamma$	$^3\text{H}$	$^{89}\text{Sr}$	$^{90}\text{Sr}$	$^{238}\text{Pu}$	$^{239+240}\text{Pu}$	$^{241}\text{Am}$	$^{244}\text{Cm}$		
大気浮遊じん	大気浮遊じん	2	毎月	3	6									東京電力(株) 福島第二 原子力発電所
陸	土表土	4	年2回	1	4		(4)*	(4)*						
海	海水	3	年4回	1	3	3	3	3						
海底沈積物	海底沈積物	2	年4回	1	2		2	2						
指標植物	松葉	2	年4回	1	2									

\* 分析中

福島第二原子力発電所 環境モニタリング地点図



2 測定方法

測定項目		測定装置	測定方法
空間放射線	空間線量率	モニタリングポスト	検出器：2"φ×2"NaI (Tl) シンチレーション検出器 (Alokaまたは富士電機、温度補償・エネルギー補償回路付) 測定位置：地表上約1.6m 校正線源：Ra-226
	空間積算線量	蛍光ガラス線量計	測定法：文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法」(平成14年制定) 検出器：蛍光ガラス線量計、旭テクノグラス SC-1 測定器：旭テクノグラス FGD-202 測定位置：地表上約1m 校正線源：Cs-137
環境試料	大気浮遊放射能	ダストモニタ	測定法：6時間連続集じん、6時間放置後全アルファ及び全ベータ放射能を同時測定 集じん法：ろ紙ステップ式、使用ろ紙：HE-40T 吸引量：約90m <sup>3</sup> /6時間 検出器：ZnS (Ag) シンチレータとプラスチックシンチレータのはり合わせ検出器 (Aloka ADC-121R2) 採取位置：地表上約3m 校正線源：U <sub>3</sub> O <sub>8</sub>
	核種濃度	Ge半導体検出装置 ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置	測定法：文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(平成4年改訂) 大気浮遊じんは、1ヶ月の集じんろ紙を全てU8容器に入れ測定。 陸土、海底沈積物、指標植物(松葉)は、生試料により測定。 指標植物(松葉)は、直接U8容器に入れ測定。 海水は、2Lを分取し2Lマリネリ容器で測定。 海水のトリチウムは蒸留後測定。 測定器：Ge半導体検出器 (ORTEC GEM28-S型 他3台) 波高分析器 (SEIKO EG&G 7600シリーズ (4096ch) 1台) ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置 (Aloka LSC-LB5B)
	ストロンチウム-89 ストロンチウム-90濃度	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	測定法：文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」のうちイオン交換法(平成15年改訂) 測定器：Aloka LBC-420, LBC-4202B 校正線源：Sr-89, 90

福島第二原子力発電所

3 測定結果

(1) 空間放射線

了 空間線量率

測定年月		平成 26 年 4 月				平成 26 年 5 月				平成 26 年 6 月			
測定項目		空間線量率				空間線量率				空間線量率			
No.	地点名	平均値	最大値	測定時間	備考	平均値	最大値	測定時間	備考	平均値	最大値	測定時間	備考
		(nGy/h)	(nGy/h)	(h)		(nGy/h)	(nGy/h)	(h)	(次測理由/時間)	(nGy/h)	(nGy/h)	(h)	(次測理由/時間)
1	MP-1	739	761	720		718	749	743	点検/1時間	682	730	714	点検/6時間
2	MP-2	515	542	720		489	510	742	点検/2時間	474	497	714	点検/6時間
3	MP-3	767	795	720		740	772	742	点検/2時間	727	761	714	点検/6時間
4	MP-4	697	728	720		673	708	743	点検/1時間	660	700	714	点検/6時間
5	MP-5	658	672	720		645	659	742	点検/2時間	636	655	714	点検/6時間
6	MP-6	321	329	720		309	329	742	点検/2時間	296	312	715	点検/5時間
7	MP-7	279	289	720		268	286	742	点検/2時間	257	275	715	点検/5時間

イ 空間積算線量

測定期間		平成26年4月17日～平成26年7月10日				
No.	測定項目		積算線量 ( mGy )	測定日数 ( 日 )	備考	
	地点名					
1	M	P	1	1.60 ( 1.71 )	84	
2	M	P	2	0.93 ( 1.00 )	84	
3	M	P	3	1.69 ( 1.81 )	84	
4	M	P	4	1.27 ( 1.36 )	84	
5	M	P	5	1.29 ( 1.38 )	84	
6	M	P	6	0.61 ( 0.65 )	84	
7	M	P	7	0.40 ( 0.43 )	84	
8	富岡町小	浜		1.67 ( 1.79 )	84	
9	富岡町	富岡第一中学校		1.20 ( 1.29 )	84	
10	富岡町上	町の町社宅		3.02 ( 3.24 )	84	
11	富岡町上	郡山清水		2.99 ( 3.20 )	84	
12	富岡町上	郡山上郡		2.57 ( 2.75 )	84	
13	榎葉町上	繁岡山根		1.11 ( 1.19 )	84	
14	榎葉町	井出浄光東		0.96 ( 1.03 )	84	
15	榎葉町下	繁岡一丁坪		0.96 ( 1.03 )	84	
16	富岡町上	郡山岩井戸		1.90 ( 2.04 )	84	
17	榎葉町	井出八岩		0.41 ( 0.44 )	84	
18	榎葉町	榎葉中学校		0.48 ( 0.51 )	84	

(注) ( ) 内は、90日換算値。

(2) 環境試料

ア 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能

No.	地点名	測定年月	全アルファ放射能				全ベータ放射能			
			平均値 (Bq/m <sup>3</sup> )	最大値 (Bq/m <sup>3</sup> )	測定時間 (h)	備考 (欠測理由/時間)	平均値 (Bq/m <sup>3</sup> )	最大値 (Bq/m <sup>3</sup> )	測定時間 (h)	備考 (欠測理由/時間)
1	M P - 1	平成26年 4月	0.021	0.081	720		0.039	0.12	720	
		平成26年 5月	0.014	0.065	744		0.030	0.10	744	
		平成26年 6月	0.017	0.082	696	精密点検/2.4時間	0.032	0.12	696	精密点検/2.4時間
2	M P - 7	平成26年 4月	0.022	0.079	720		0.040	0.12	720	
		平成26年 5月	0.015	0.074	744		0.031	0.11	744	
		平成26年 6月	0.018	0.095	696	精密点検/2.4時間	0.034	0.13	696	精密点検/2.4時間

イ 大気浮遊じんの核種濃度

No.	地点名	採取期間	核種濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )													
			<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>56</sup> Co	<sup>56</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce			
1	M P - 1	H26. 4. 1 ~ H26. 4. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.020	0.047	ND	
		H26. 5. 1 ~ H26. 5. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.070	0.20	ND	
		H26. 6. 1 ~ H26. 6. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.012	0.043	ND	
2	M P - 7	H26. 4. 1 ~ H26. 4. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.027	0.043	ND	
		H26. 5. 1 ~ H26. 5. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.017	0.041	ND	
		H26. 6. 1 ~ H26. 6. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.010	0.030	ND	

(注) 「ND」は、検出限界未満。





添付資料

原子炉運転状況、放射性廃棄物管理状況  
及び試料採取時の付帯データ

自 平成26年4月

至 平成26年6月

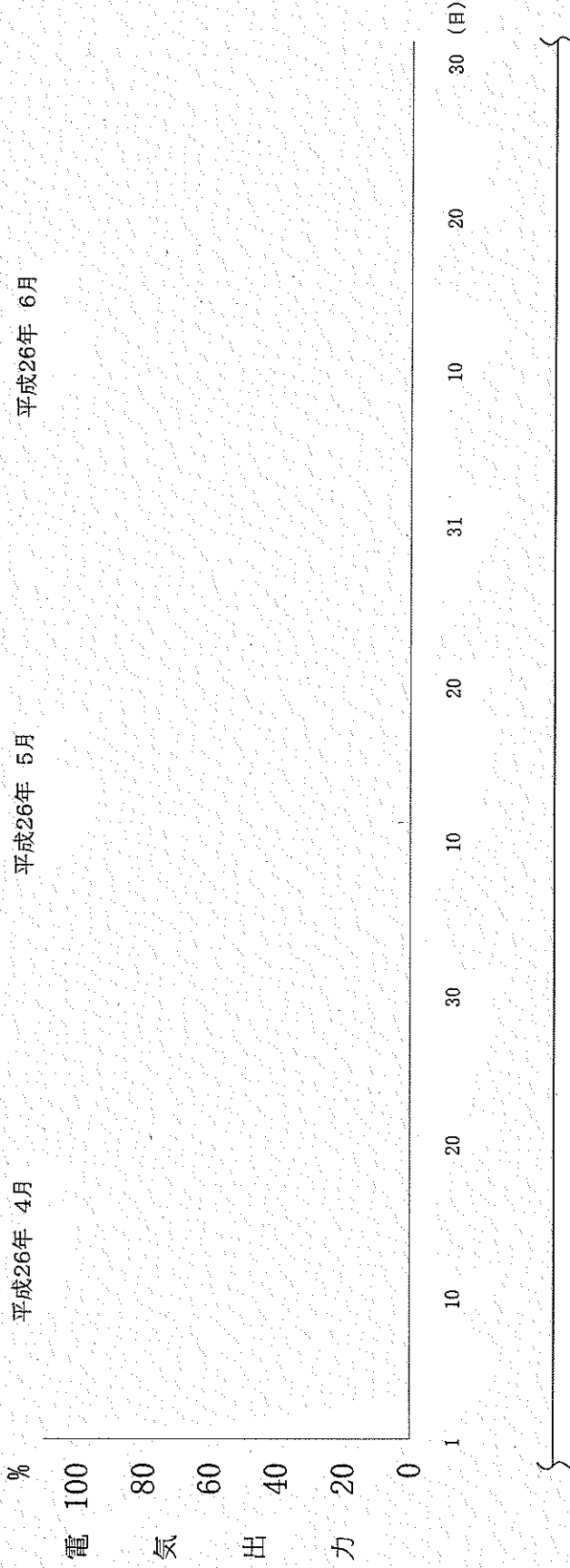
東京電力株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所

福島第二原子力発電所

# 福島第一原子力発電所 運転状況



1号機～6号機  
廃止措置

記 事

1. 福島第一原子力発電所放射性廃棄物管理状況（平成26年度 第1四半期報）

(1) 気体廃棄物の放出量（1～4号機）

a. 1～4号機原子炉建屋及び1～3号機格納容器からの追加放出量

(単位：Bq)

	粒子状物質		備考
	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	
1～4号機合計	$9.0 \times 10^8$	$2.6 \times 10^9$	「福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画」において、「1～4号機原子炉建屋及び1～3号機原子炉格納容器以外からの追加的放出は、極めて少ないと考えられる」と評価されていることから、1～4号機における気体廃棄物の放出量としては、1～4号機原子炉建屋及び1～3号機格納容器から放出される $^{134}\text{Cs}$ 及び $^{137}\text{Cs}$ を対象としている。
1号機	$8.0 \times 10^8$	$2.4 \times 10^9$	
2号機	$1.5 \times 10^7$	$2.8 \times 10^7$	
3号機	$1.2 \times 10^7$	$2.3 \times 10^7$	
4号機	$7.7 \times 10^7$	$1.2 \times 10^8$	
内訳			
放出管理の目標値 (年間)	$2.6 \times 10^{11}$	$2.6 \times 10^{11}$	月1回以上の試料採取により得られた放射能濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )に排気設備風量又は風量推定値(m <sup>3</sup> /h)を乗ずることによって放出率(Bq/h)を求め、その放出率に報告対象期間の時間(h)を乗ずることによって、追加放出量を求めている。

(2) 放射性気体及び放射性液体廃棄物の放出量 (第1四半期)

a. 放射性気体廃棄物の放出量 (5・6号機)

(単位: Bq)

	全希ガス	<sup>131</sup> I	全粒子状物質	<sup>3</sup> H	備 考
原子炉施設合計	検出されず	検出されず	検出されず	4.1×10 <sup>10</sup>	放射性気体廃棄物の放出放射能量 (Bq) は、排気中の放射性物質の濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> ) に排気量 (m <sup>3</sup> ) を乗じて求められている。 なお、放射性物質が検出されない場合は、放出放射能量 (Bq) の算出は実施せず”検出されず”と表示した。 検出されずとは、以下の濃度未満の場合をいう。 全希ガス: 2×10 <sup>-2</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) <sup>131</sup> I: 7×10 <sup>-9</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) 全粒子状物質: 3×10 <sup>-7</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) ( <sup>137</sup> Csで代表した) <sup>3</sup> H: 4×10 <sup>-5</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )
排気筒 別内訳	検出されず	検出されず	検出されず	4.1×10 <sup>10</sup>	
年間放出管理目標値	2.8×10 <sup>15</sup>	1.4×10 <sup>11</sup>	—	—	

b. 放射性液体廃棄物の放出量 (第1四半期)

(単位: Bq)

	全核種 ( <sup>3</sup> Hを除く)	核種別					
		<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>131</sup> I
原子炉施設合計	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
排水口 別内訳	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	5号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	6号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
年間放出管理目標値	7.4 × 10 <sup>10</sup>						

(続き)

	核種別			<sup>3</sup> H	備考
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	その他		
原子炉施設合計	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
排水口 別内訳	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	5号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	6号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
年間放出管理目標値				7.4 × 10 <sup>12</sup>	

## 3. 試料採取時の付帯データ

## (ア) 海水

採取地点名	採取年月日	気温 (°C)	水温 (°C)	pH	Cl <sup>-</sup> (‰)
第一 (発) 取水口	H26. 5. 13	14.4	13.5	8.2	18.1
第一 (発) 南放水口	H26. 5. 13	12.6	11.5	8.2	18.0
第一 (発) 北放水口	H26. 5. 13	16.6	13.3	8.2	18.5

平成26年度月別降水データ表

月	日数 (d)	時間 (h)	降水量 (mm)
H26.4	5	43	147.0
5	10	56	152.5
6	14	96	202.0
7			
8			
9			
10			
11			
12			
H27.1			
2			
3			
合計	29	195	501.5

福島第一原子力発電所



環境試料測定日

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日		γ	採取年月日	測定年月日									
			全α・β 放射能	γ			<sup>3</sup> H	<sup>89</sup> Sr	<sup>90</sup> Sr	<sup>238</sup> Pu	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am	<sup>241</sup> Cm			
陸	敷地	H26.4.1	/	H26.5.9	H26.5.22	H26.5.20			H26.6.30	H26.7.18						
	大熊町下野上 <sup>下野上</sup>	~H26.4.30	/		H26.5.22	H26.5.20			H26.6.30	H26.7.1						
	大熊町熊川 <sup>熊川</sup>	H26.5.1	/	H26.6.9	H26.5.22	H26.5.20			H26.6.30	H26.7.1						
	双葉町郡山 <sup>郡山</sup>	~H26.5.31	/		H26.5.22	H26.5.20			H26.6.30	H26.7.1						
海	取水	H26.6.1	/	H26.7.7	H26.5.14	H26.5.13			H26.6.6	H26.7.11						
	南放水	~H26.6.30	/		H26.5.16	H26.5.13			H26.6.7.14	H26.7.18						
海底沈積物	北放水	H26.4.1	/	H26.5.9	H26.5.19	H26.5.13			H26.5.30	H26.7.18						
	南放水	~H26.4.30	/		H26.6.18	H26.5.13			H26.6.18	H26.6.19						
松	北放水	H26.5.1	/	H26.6.9	H26.6.24	H26.5.13			H26.6.18	H26.6.19						
	M P - 3 付近	~H26.5.31	/		H26.5.15	H26.5.15										
	環境管理棟付近	H26.6.1	/	H26.7.7	H26.5.15	H26.5.15										
		~H26.6.30	/		H26.5.15	H26.5.15										

(注) 「/」は測定対象外。

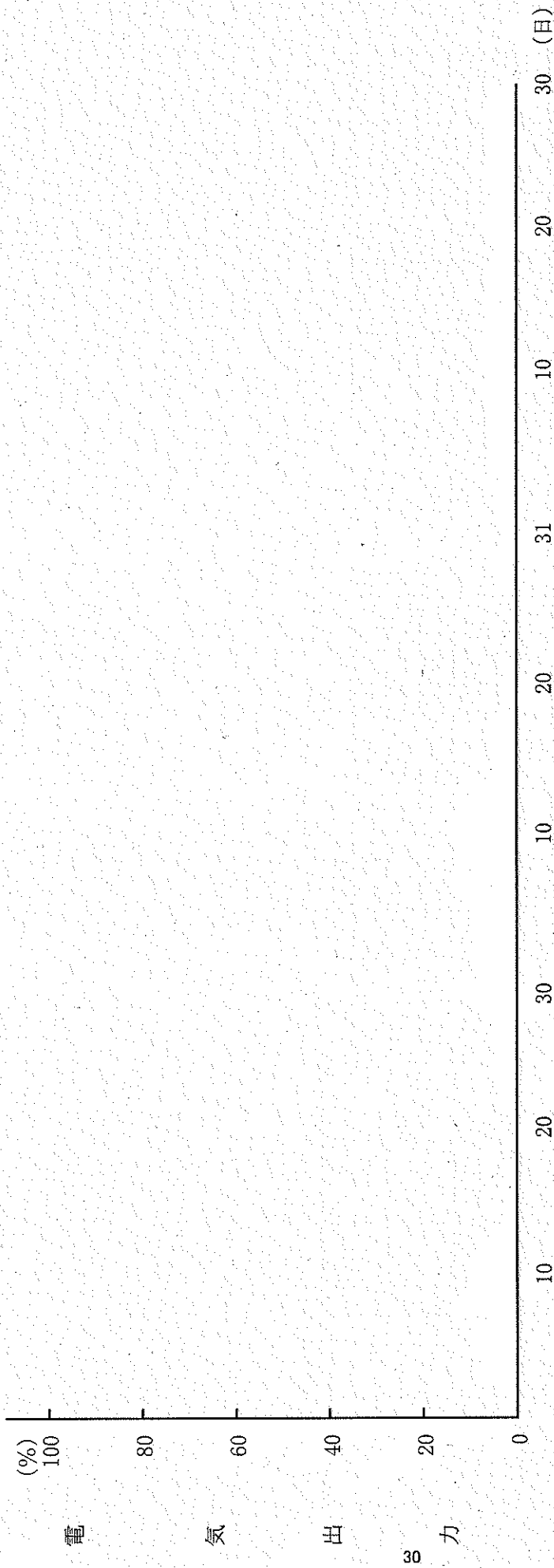
(注) 「/」は測定対象外。

# 福島第二原子力発電所 運転状況

平成26年4月

平成26年5月

平成26年6月



記 1号機、2号機、3号機、4号機

(1) H23: 3/11 (平成22年度) ~

東北太平洋沖地震に伴う事故停止

事

放射性廃棄物管理状況

福島第二原子力発電所(平成26年度,第1四半期)

1. 放射性気体廃棄物の放出量

		全希ガス	<sup>131</sup> I	全粒子状物質	<sup>3</sup> H	備考
原子炉施設合計		検出されず	検出されず	検出されず	$1.3 \times 10^{11}$	放射性気体廃棄物の放出放射エネルギー(Bq)は、排気中の放射性物質の濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )に排気量(m <sup>3</sup> )を乗じて求められている。 なお、放射性物質が検出されない場合は、放出放射エネルギー(Bq)の算出は実施せず検出されずと表示した。 検出されずとは、以下の濃度未満の場合をいう。 全希ガス: $2 \times 10^{-2}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) <sup>131</sup> I: $7 \times 10^{-9}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) 全粒子状物質: $4 \times 10^{-9}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) ( <sup>60</sup> Coで代表した)  その他排気筒(内訳) ・焼却設備排気筒 ・サイトバンカ建屋排気筒
	1号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	$2.5 \times 10^{10}$	
	2号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	$4.0 \times 10^{10}$	
	3号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	$2.7 \times 10^{10}$	
	4号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	$4.0 \times 10^{10}$	
排気筒別内訳	廃棄物処理建屋換気系排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	$2.1 \times 10^9$	
	その他排気筒	—	検出されず	検出されず	—	
年間放出管理目標値※1		$5.5 \times 10^{15}$	$2.3 \times 10^{11}$	—	—	

※1 放出管理目標値は「発電所用軽水炉施設周辺の線量目標値に関する指針(原子力委員会決定)」に定められた公衆の線量目標値(50 μSv/年)を下回るように設定した年間の放出放射エネルギーである。

(単位: Bq)

2. 放射性液体廃棄物の放出量(第1四半期)

	核種別						
	全核種 ( <sup>3</sup> Hを除く)	<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>131</sup> I
原子炉施設合計	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず
排水口 別内訳	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	4号機排水口	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず
年間放出管理目標値*1	1.4 × 10 <sup>11</sup>						

(続き)

	核種別		<sup>3</sup> H	備考
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs その他		
原子炉施設合計	検出されず	検出されず	検出されず	放射性液体廃棄物の放出放射能(Bq)は、排水中の放射性物質の濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )に排水量(m <sup>3</sup> )を乗じて求めている。 なお、放射性物質が検出されない場合は、放出放射能(Bq)の算出は実施せず検出されずと表示した。 放出されずとは、以下の濃度未満の場合をいう。 全核種( <sup>3</sup> Hを除く): 2 × 10 <sup>-2</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) <sup>60</sup> Coで代表した) <sup>3</sup> H: 2 × 10 <sup>-1</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )
排水口 別内訳	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	
	2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	
	3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	
	4号機排水口	検出されず	検出されず	
年間放出管理目標値*1			1.4 × 10 <sup>13</sup> *2	

\*1 放出管理目標値は「発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に関する指針(原子力委員会決定)」に定められた公衆の線量目標値(50 μSv/年)を下回るように設定した年間の放出放射能である。

\*2 トリチウムについては、放出管理の年間基準値を記載。

トリチウムは公衆への影響が比較的小さく、上記指針に定められた線量目標値がないことから、放出管理目標値の100倍の値を年間の放出放射能として設定したものである。

## 試料採取時の付帯データ

## (ア) 海水

採取地点名	採取年月日	気温(°C)	水温(°C)	pH	Cl <sup>-</sup> (%)
第二(発)取水口	H26. 5. 14	18.6	12.0	8.1	19.0
第二(発)南放水口	H26. 5. 14	19.2	13.1	8.1	18.8
第二(発)北放水口	H26. 5. 14	22.0	15.0	8.1	18.8

福島第二原子力発電所

平成26年度月別降水データ表

月	日数(d)	時間(h)	降水量(mm)
H26.4	6	46	168.5
5	11	60	172.0
6	12	89	218.5
7			
8			
9			
10			
11			
12			
H27.1			
2			
3			
合計	29	195	559.0

環境試料測定日

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日	
			α・β放射	γ
大気浮遊じん	M P - 1	H26. 4. 1 ~H26. 4. 30	連続	H26. 5. 9
		H26. 5. 1 ~H26. 5. 31	連続	H26. 6. 6
		H26. 6. 1 ~H26. 6. 31	連続	H26. 7. 9
		H26. 4. 1 ~H26. 4. 30	連続	H26. 5. 9
M P - 7	M P - 7	H26. 5. 1 ~H26. 5. 31	連続	H26. 6. 7
		H26. 6. 1 ~H26. 6. 31	連続	H26. 7. 9

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日									
			γ	<sup>3</sup> H	<sup>90</sup> Sr	<sup>90</sup> Sr	<sup>238</sup> Pu	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am	<sup>242</sup> Cm		
陸	発電所敷地内	H26. 5. 26	H26. 6. 5	/	分析中	/	/	/	/	/	/	/
	槽葉町被倉	H26. 5. 26	H26. 6. 5	/	分析中	/	/	/	/	/	/	/
	富岡町小浜	H26. 5. 26	H26. 6. 6	/	分析中	/	/	/	/	/	/	/
	富岡町下郡山	H26. 5. 26	H26. 6. 5	/	分析中	/	/	/	/	/	/	/
海	取水口	H26. 5. 14	H26. 5. 23	H26. 5. 30	H26. 8. 20	H26. 8. 20	H26. 8. 20	H26. 8. 20	H26. 8. 20	H26. 8. 20	H26. 8. 20	H26. 8. 20
	南放水口	H26. 5. 14	H26. 5. 21	H26. 5. 29	H26. 8. 20	H26. 8. 20	H26. 8. 20	H26. 8. 20	H26. 8. 20	H26. 8. 20	H26. 8. 20	H26. 8. 20
	北放水口	H26. 5. 14	H26. 5. 20	H26. 5. 29	H26. 8. 20	H26. 8. 20	H26. 8. 20	H26. 8. 20	H26. 8. 20	H26. 8. 20	H26. 8. 20	H26. 8. 20
	南放水口	H26. 5. 14	H26. 6. 19	/	H26. 8. 12	H26. 8. 12	H26. 8. 12	H26. 8. 12	H26. 8. 12	H26. 8. 12	H26. 8. 12	H26. 8. 12
海底沈積物	北放水口	H26. 5. 14	H26. 6. 18	/	H26. 8. 12	H26. 8. 12	H26. 8. 12	H26. 8. 12	H26. 8. 12	H26. 8. 12	H26. 8. 12	H26. 8. 12
	敷地の南境界付近	H26. 5. 19	H26. 5. 22	/	/	/	/	/	/	/	/	/
松	敷地の北境界付近	H26. 5. 19	H26. 5. 22	/	/	/	/	/	/	/	/	/

(注) 「/」は測定対象外。

平成26年度 第1四半期  
空間線量率等の変動グラフ

東京電力株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所

福島第二原子力発電所

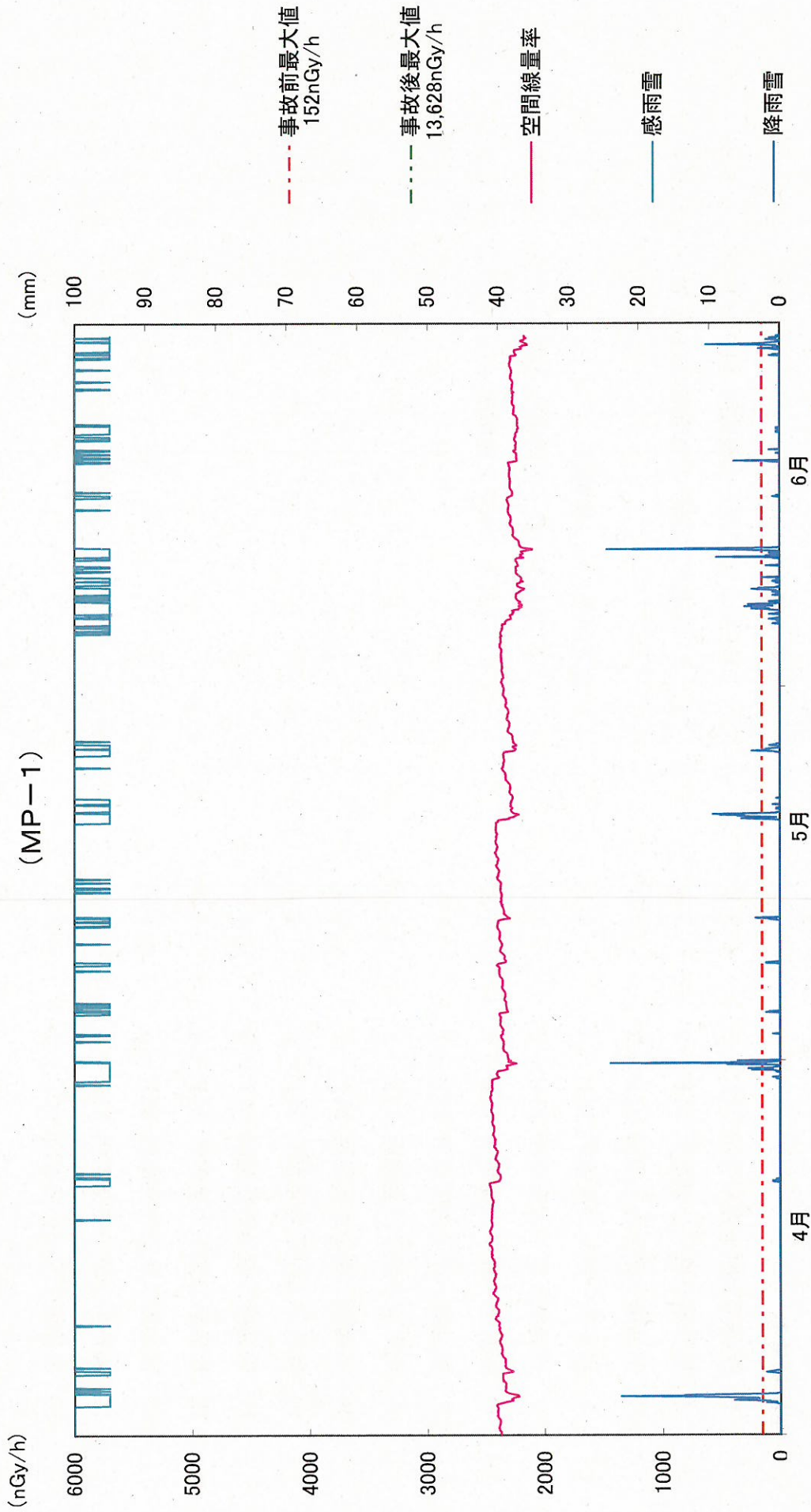


## 目次

空間線量率	
1 福島第一原子力発電所 MP-1	38
2 福島第一原子力発電所 MP-2	39
3 福島第一原子力発電所 MP-3	40
4 福島第一原子力発電所 MP-4	41
5 福島第一原子力発電所 MP-5	42
6 福島第一原子力発電所 MP-6	43
7 福島第一原子力発電所 MP-7	44
8 福島第一原子力発電所 MP-8	45
9 福島第二原子力発電所 MP-1	46
10 福島第二原子力発電所 MP-2	47
11 福島第二原子力発電所 MP-3	48
12 福島第二原子力発電所 MP-4	49
13 福島第二原子力発電所 MP-5	50
14 福島第二原子力発電所 MP-6	51
15 福島第二原子力発電所 MP-7	52
大気浮遊じん (推移)	
1 福島第二原子力発電所 MP-1	53
2 福島第二原子力発電所 MP-7	54
大気浮遊じん (相関図)	
1 福島第二原子力発電所 MP-1	55
2 福島第二原子力発電所 MP-7	55

# 空間線量率の変動グラフ

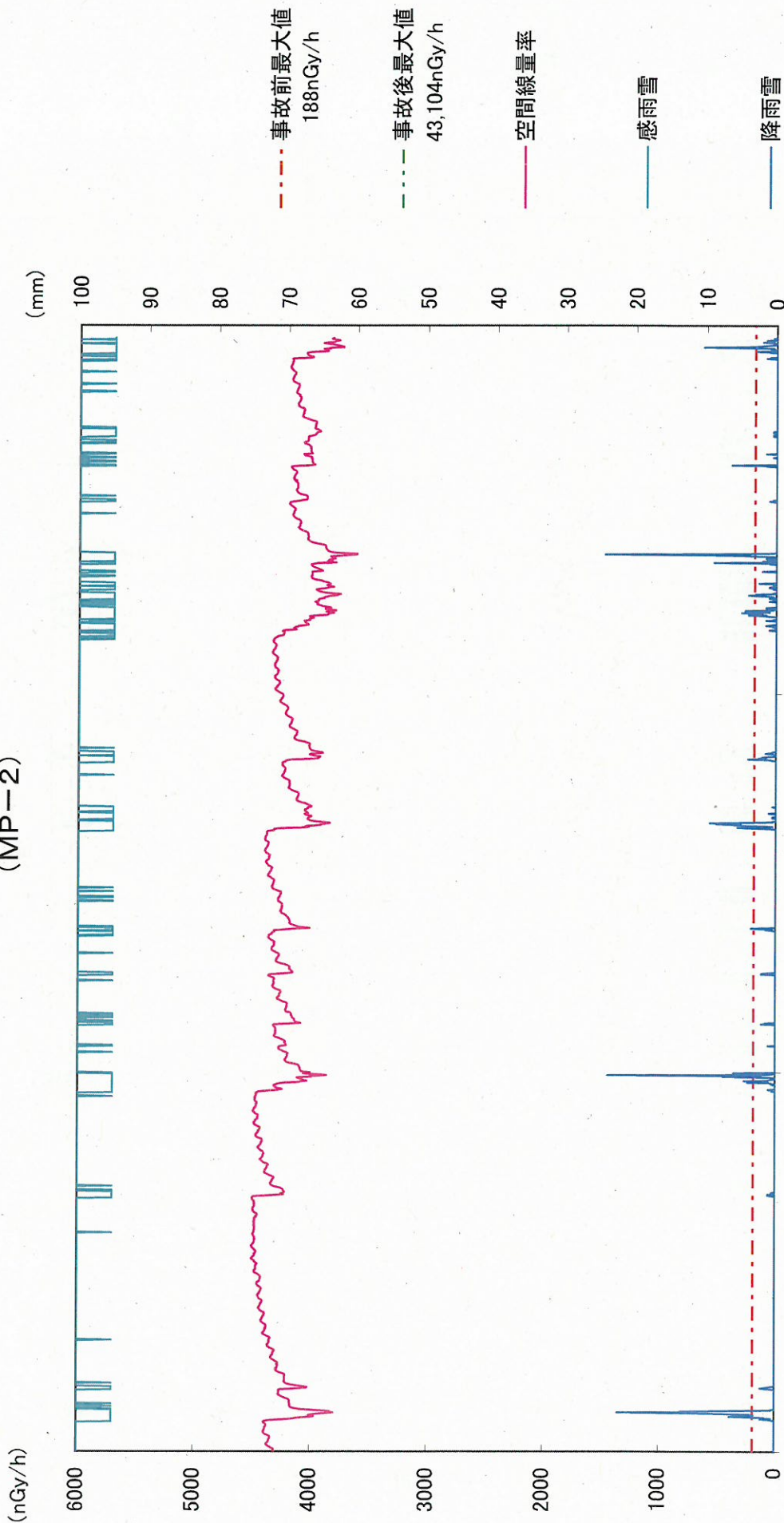
福島第一原子力発電所



H26年度第1四半期 最大値出現日時: 4月16日 16時, 4月21日 15時 2,470 nGy/h  
 H26年度第1四半期 最小値出現日時: 6月12日 14時 2,103 nGy/h

空間線量率の変動グラフ

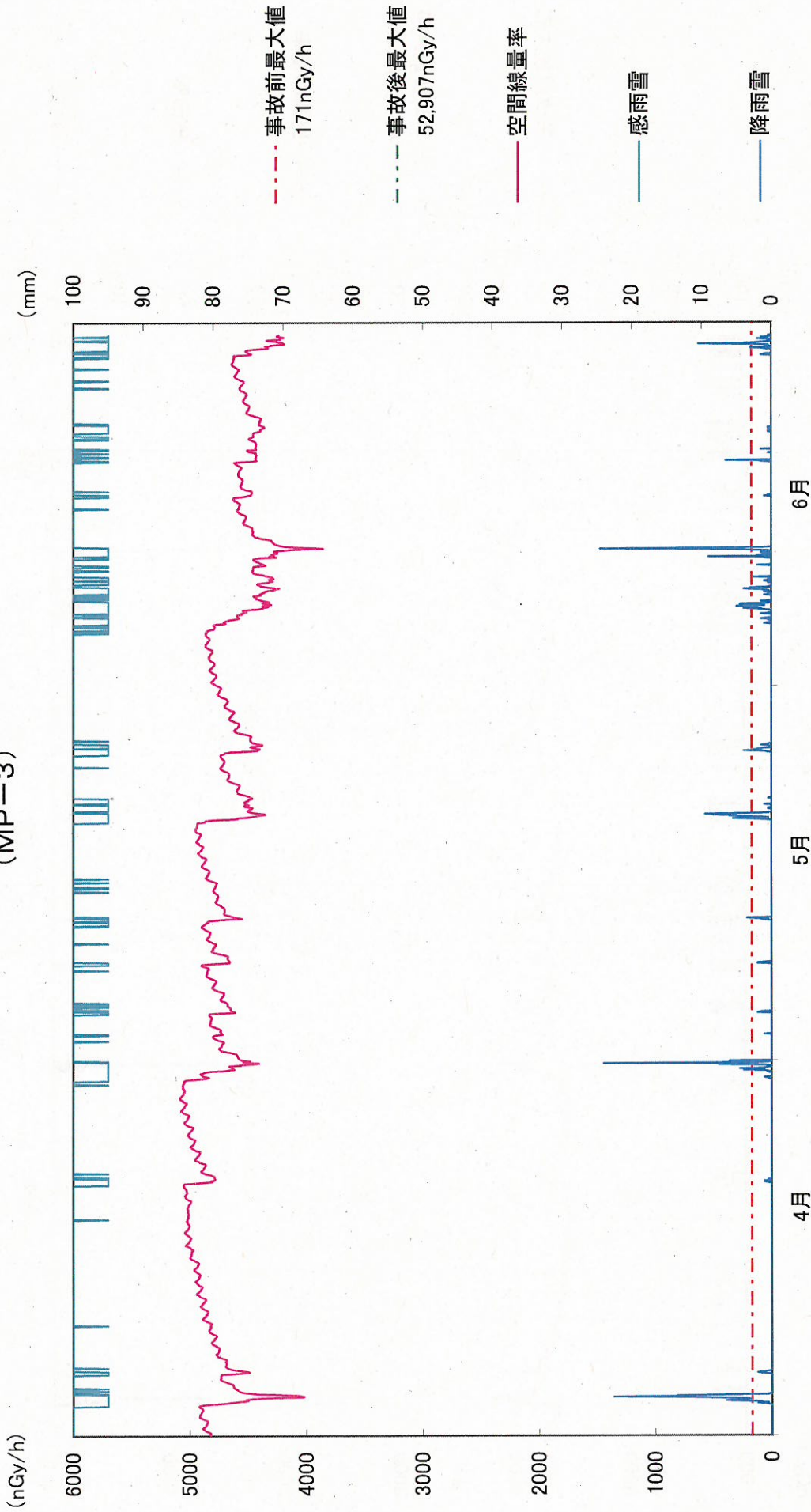
(MP-2)



H26年度第1四半期 最大値出現日時: 4月16日 16時, 4月17日 16時, 17時, 17時 4, 494 nGy/h  
 H26年度第1四半期 最小値出現日時: 6月12日 14時 3, 609 nGy/h

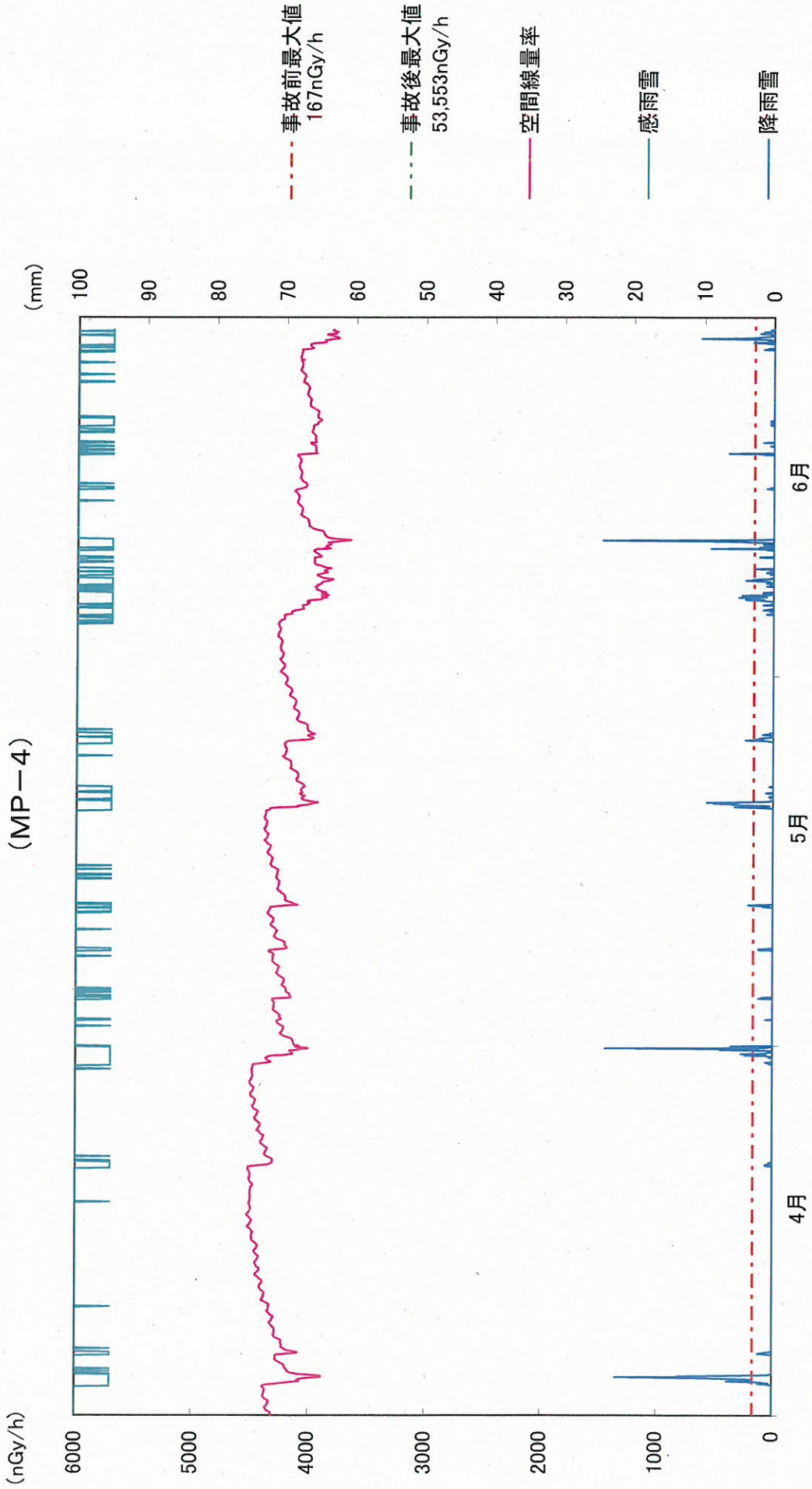
空間線量率の変動グラフ

(MP-3)



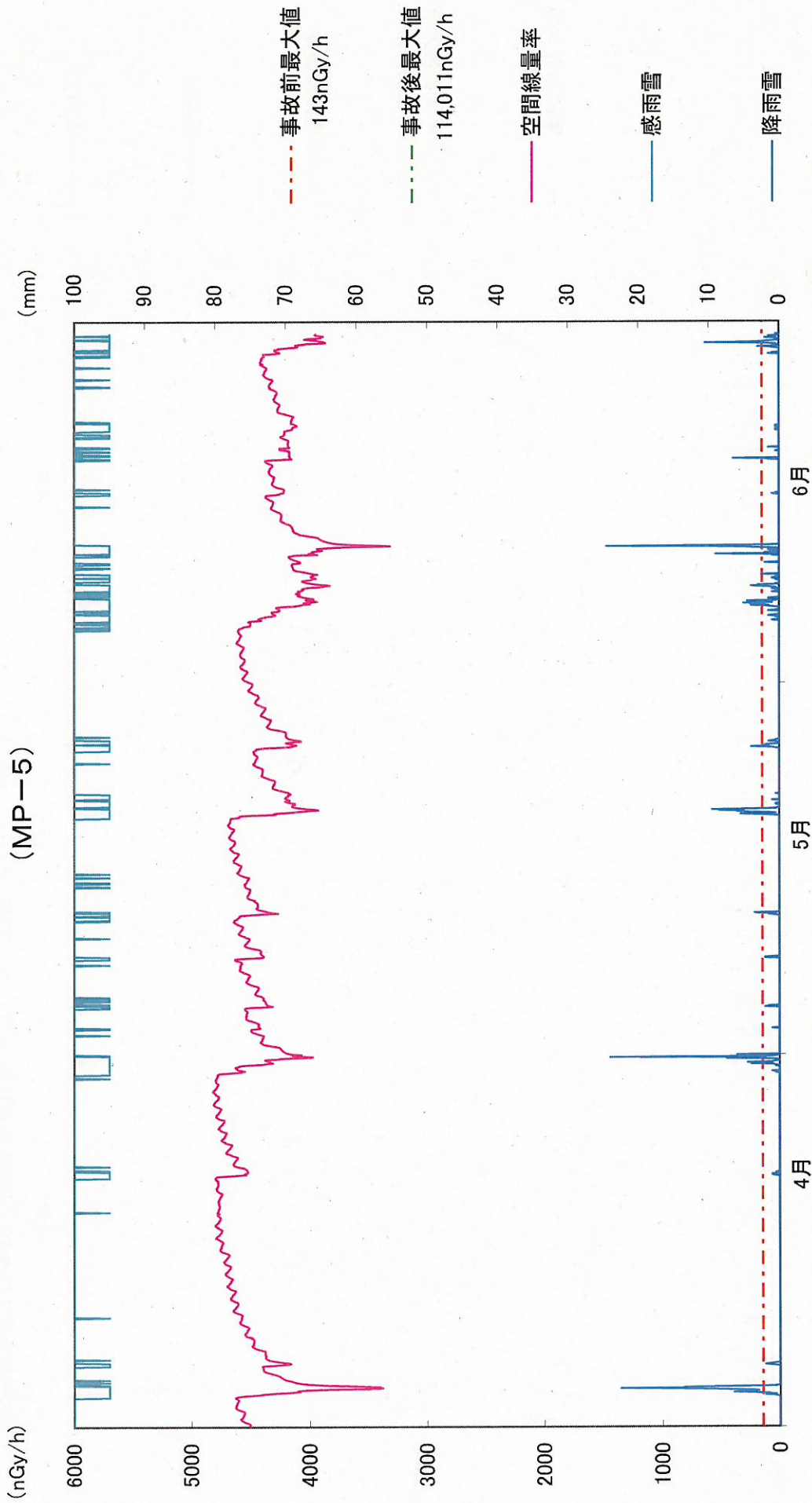
H26年度第1四半期 最大値出現日時: 4月28日 16時 5,084 nGy/h  
 H26年度第1四半期 最小値出現日時: 6月12日 14時 3,855 nGy/h

空間線量率の変動グラフ



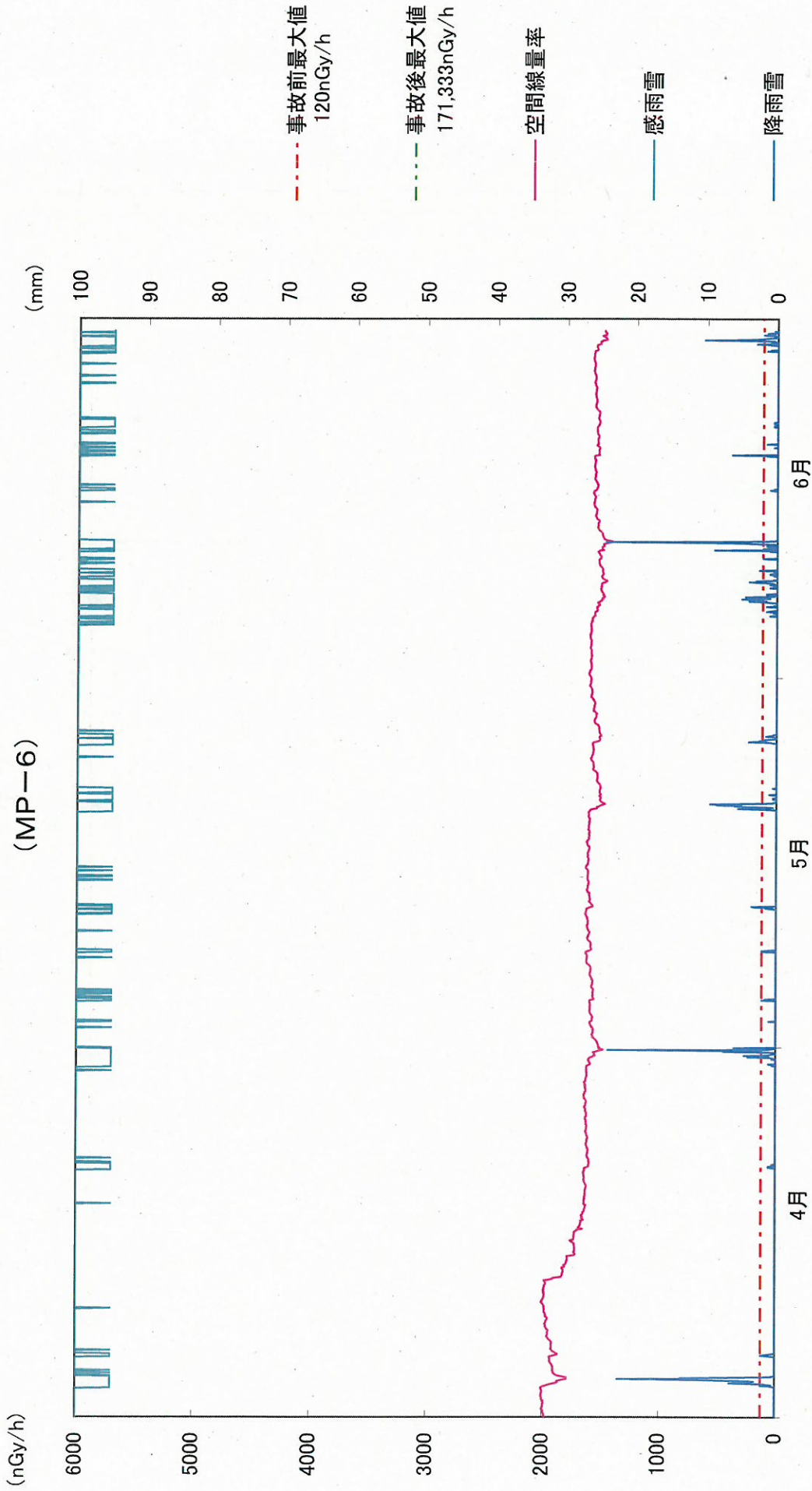
H26年度第1四半期 最大値出現日時: 4月17日 17時 4, 519 nGy/h  
 H26年度第1四半期 最小値出現日時: 6月12日 14時 3, 644 nGy/h

空間線量率の変動グラフ



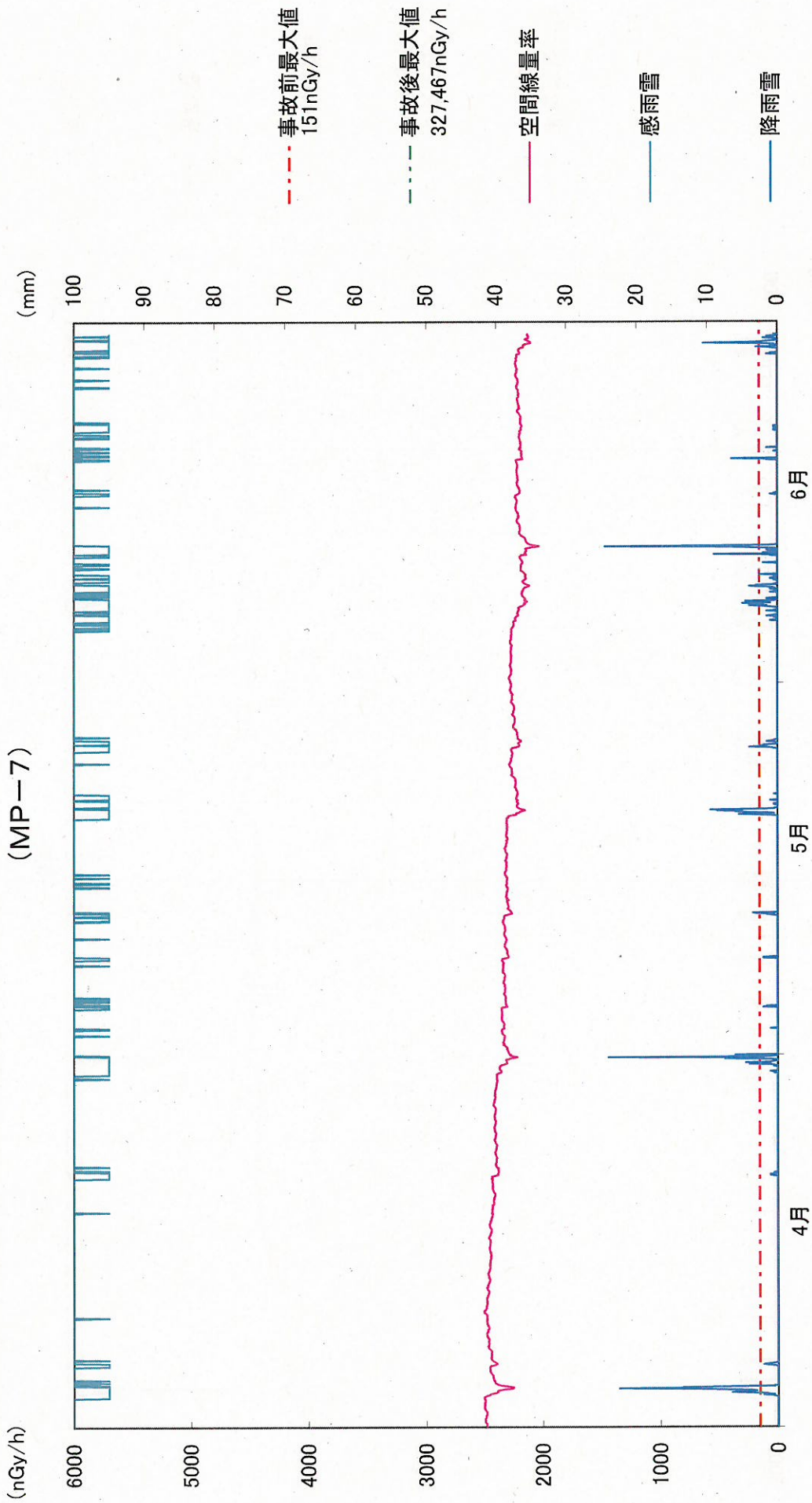
H26年度第1四半期 最大値出現日時: 4月28日 16時 4, 816 nGy/h  
 H26年度第1四半期 最小値出現日時: 6月12日 14時 3, 312 nGy/h

空間線量率の変動グラフ



H26年度第1四半期 最大値出現日時:4月 3日 11時 2,004 nGy/h  
 H26年度第1四半期 最小値出現日時:6月12日 14時 1,406 nGy/h

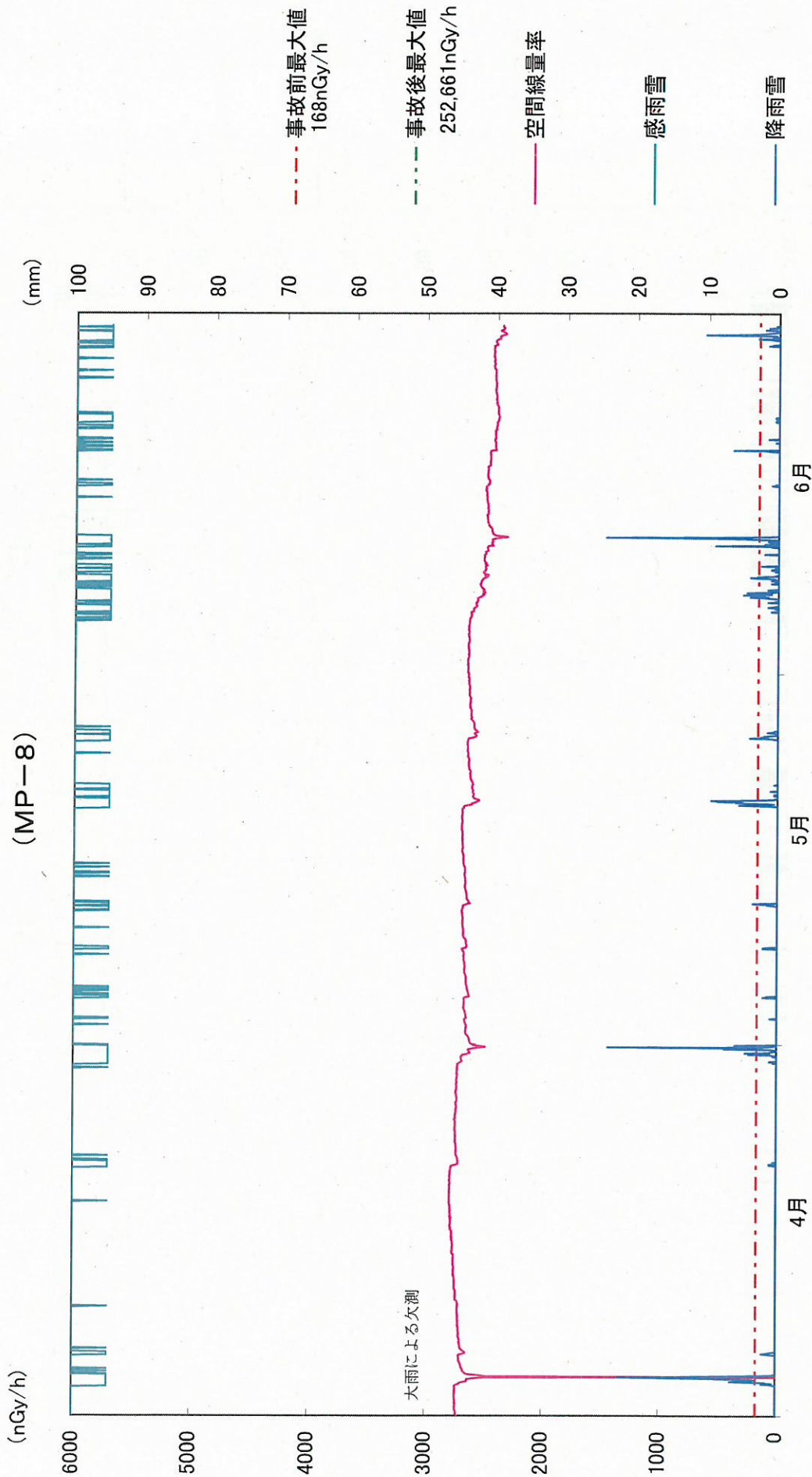
空間線量率の変動グラフ



H26年度第1四半期 最大値出現日時:4月10日 13時 2,503 nGy/h  
 H26年度第1四半期 最小値出現日時:6月12日 14時 2,031 nGy/h



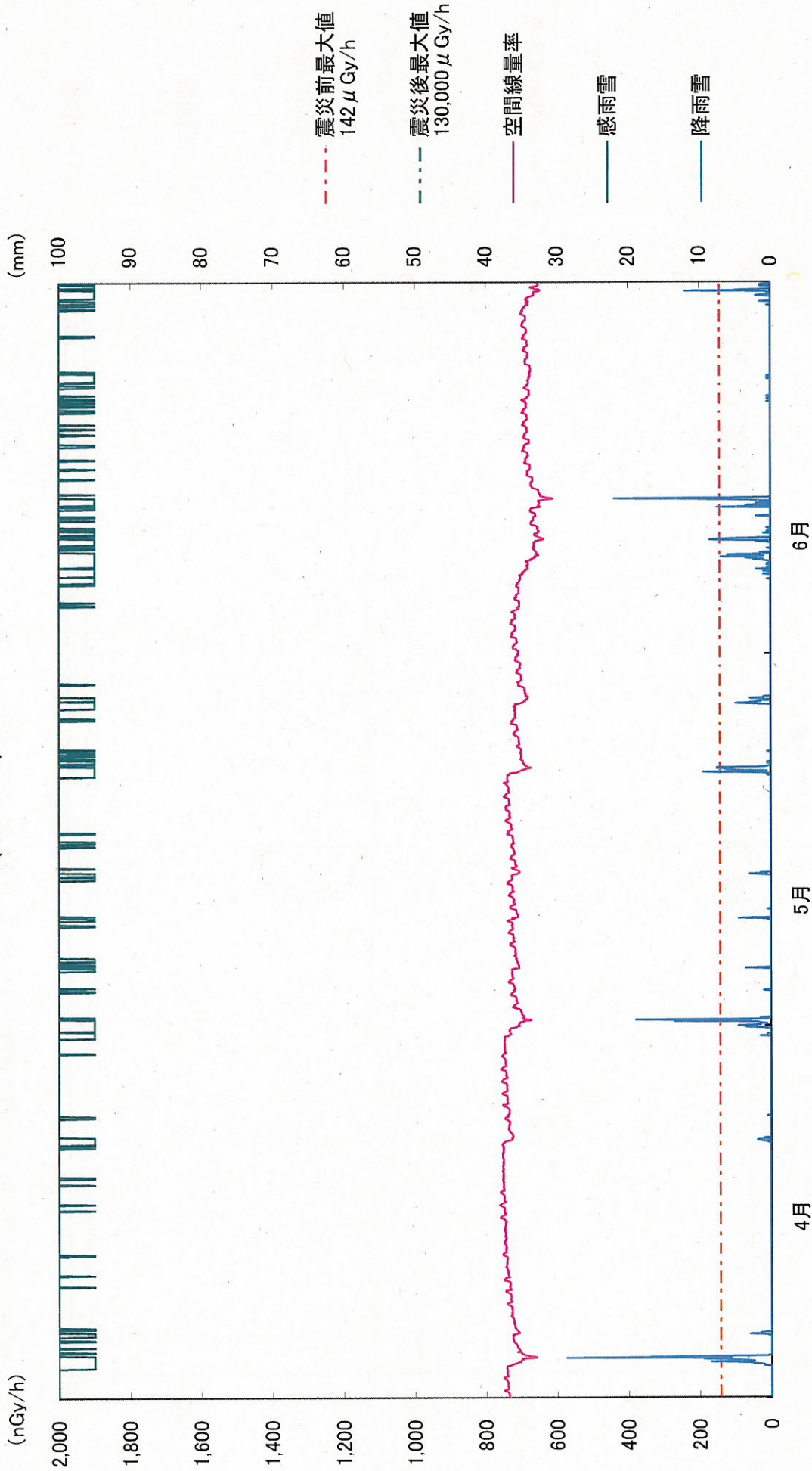
空間線量率の変動グラフ



H26年度第1四半期 最大値出現日時:4月18日 16時 2,788 nGy/h  
 H26年度第1四半期 最小値出現日時:6月12日 14時 2,313 nGy/h

空間線量率の変動グラフ

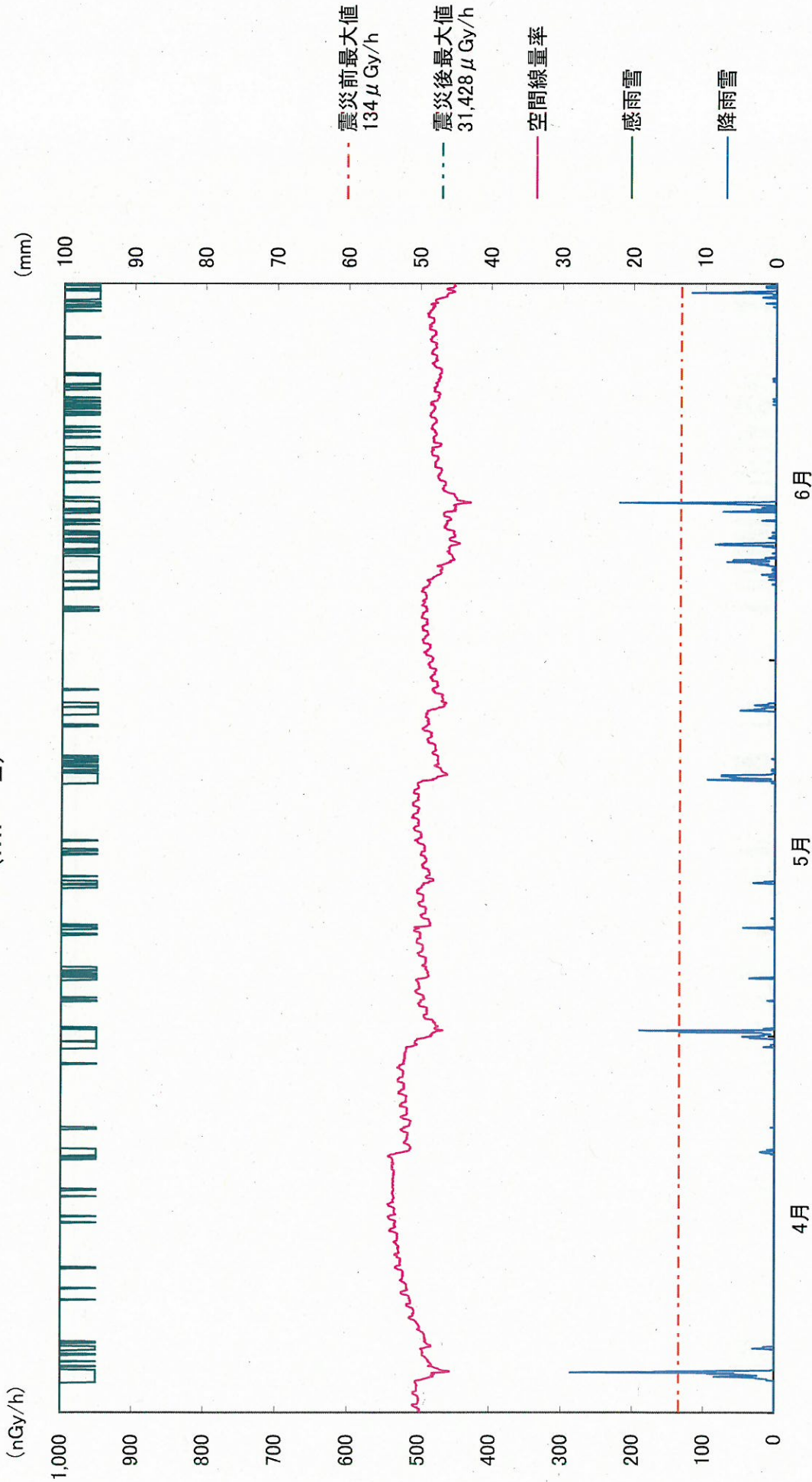
(MP-1)



H26年度第1四半期 最大値出現日時: H26年4月16日13時, 14時 761nGy/h  
 H26年度第1四半期 最小値出現日時: H26年6月12日13時, 14時 611nGy/h  
 点検校正に伴う欠測定: H26年5月20日, 6月3日

空間線量率の変動グラフ

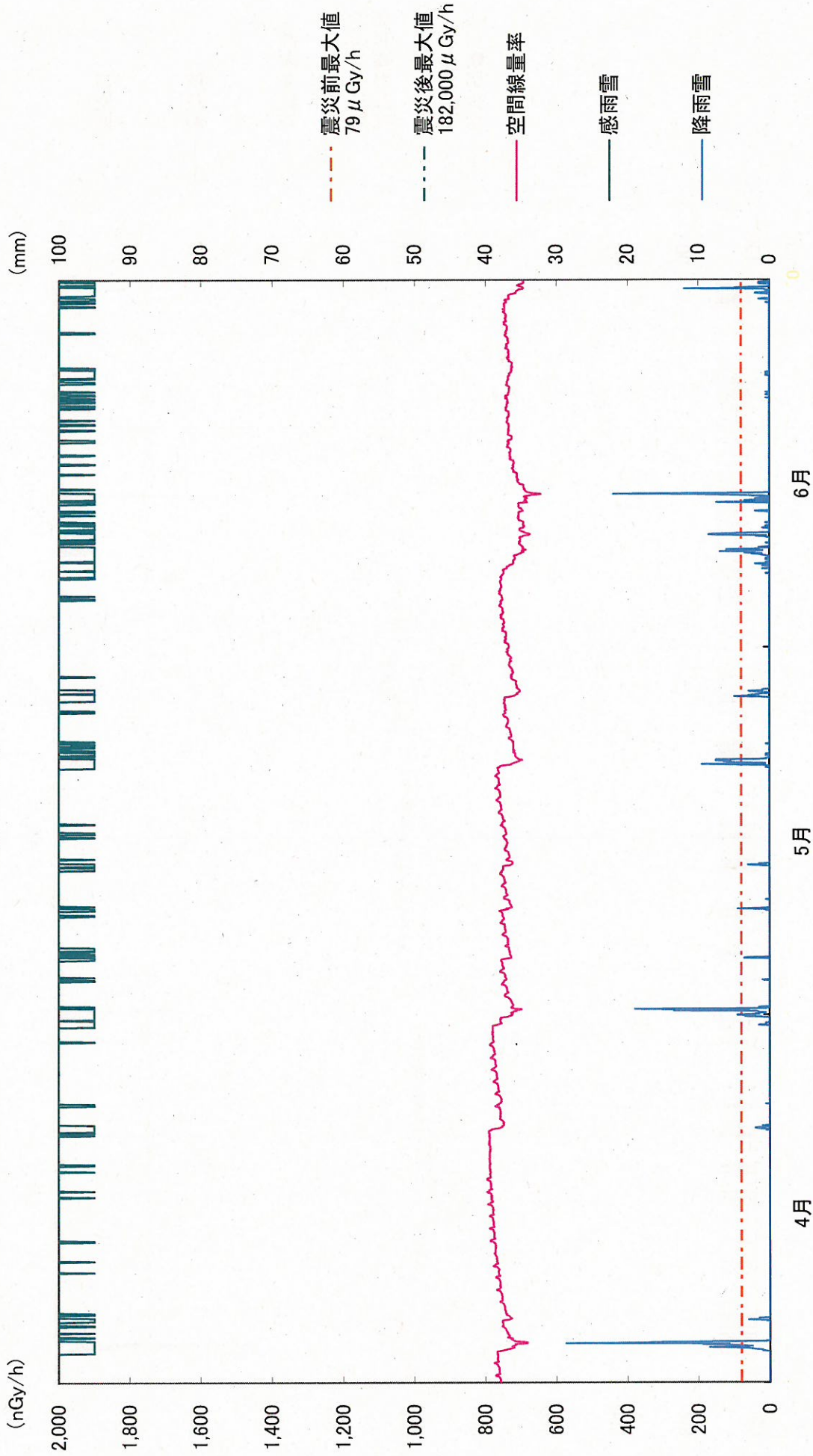
(MP-2)



H26年度第1四半期 最大値出現日時: H26年4月17日15時 542nGy/h  
 H26年度第1四半期 最小値出現日時: H26年6月12日13時, 14時 429nGy/h  
 点検校正に伴う欠測定: H26年5月21日, 6月4日

空間線量率の変動グラフ

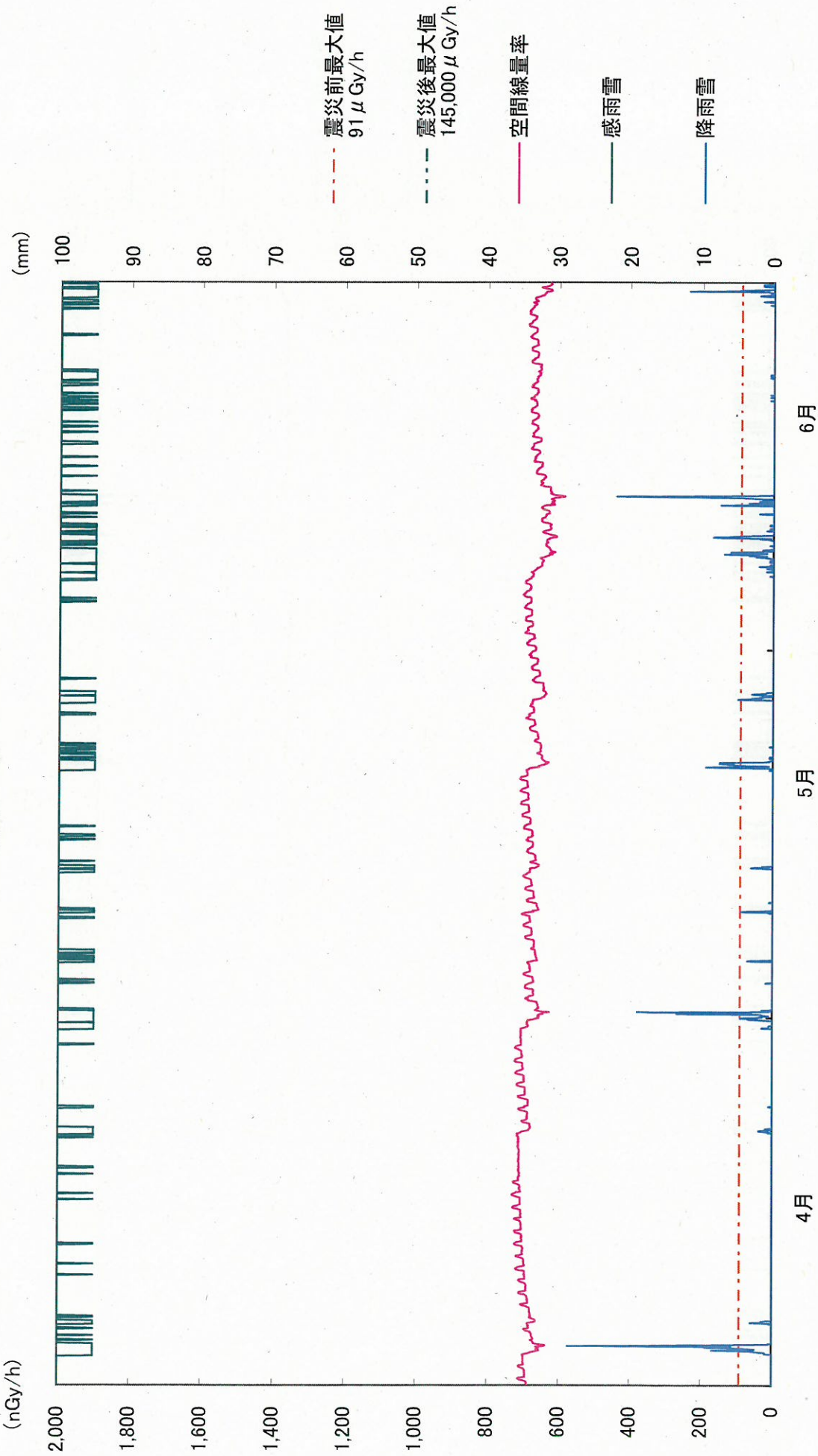
(MP-3)



H26年度第1四半期 最大値出現日時: H26年4月16日14時, 4月17日14時, 15時 795nGy/h  
 H26年度第1四半期 最小値出現日時: H26年6月12日12時, 13時 644nGy/h  
 点検校正に伴う欠測定: H26年5月22日, 6月5日

空間線量率の変動グラフ

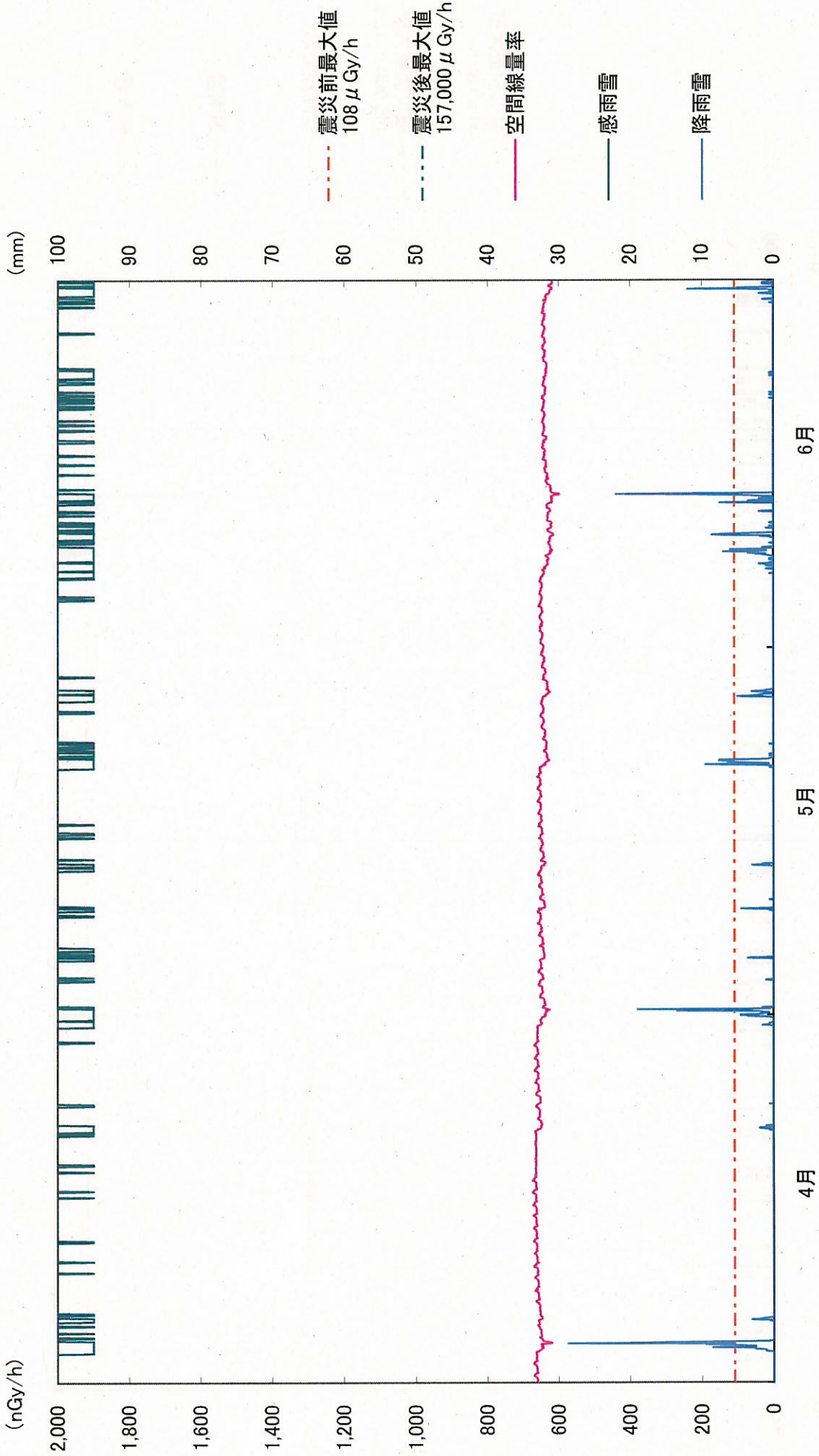
(MP-4)



H26年度第1四半期 最大値出現日時: H26年4月16日13時, 14時 728nGy/h  
 H26年度第1四半期 最小値出現日時: H26年6月12日13時 585nGy/h  
 点検校正に伴う欠測定: H26年5月23日, 6月6日

空間線量率の変動グラフ

(MP-5)



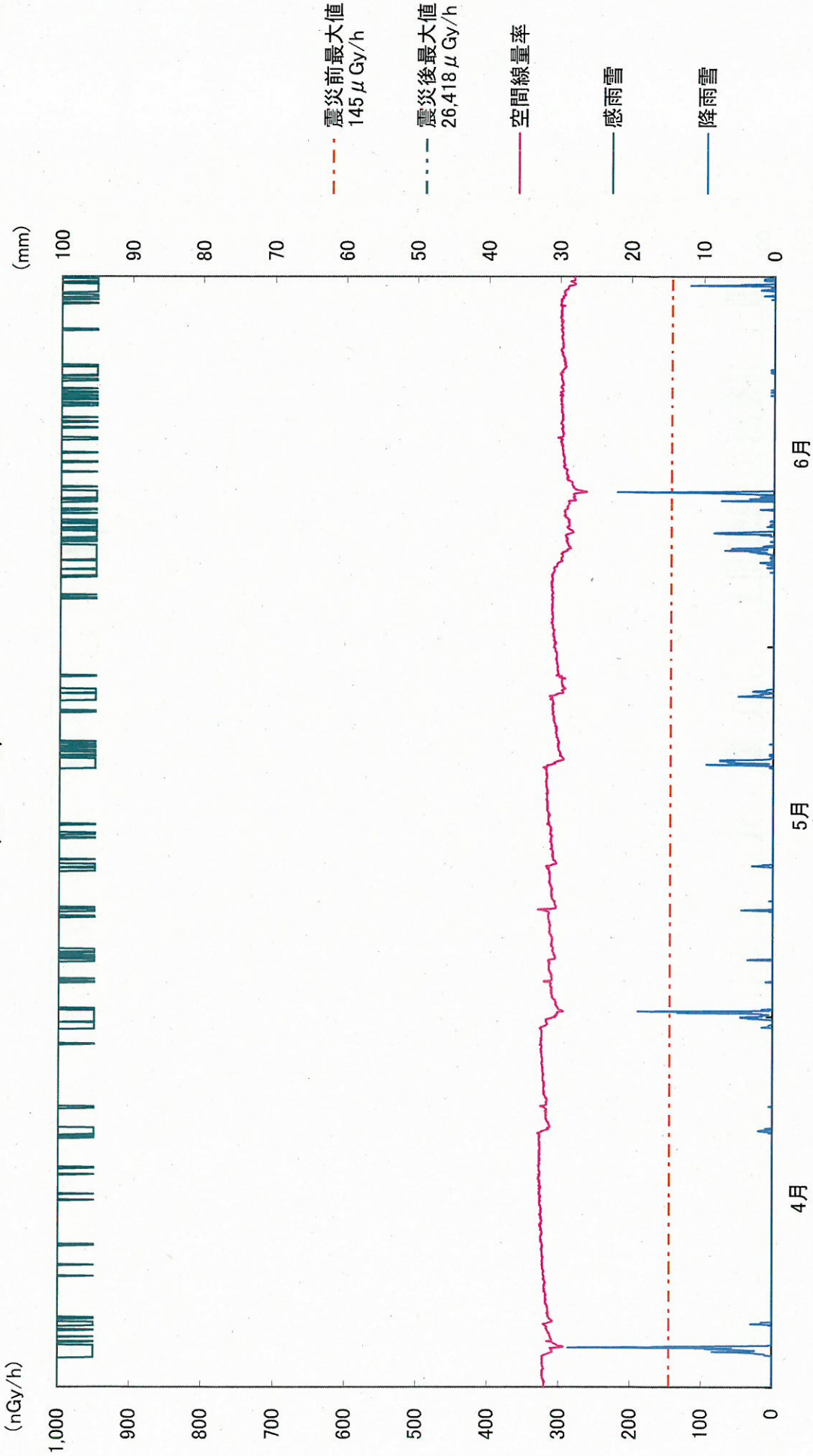
H26年度第1四半期 最大値出現日時: H26年4月16日13時, 4月17日13時 672nGy/h

H26年度第1四半期 最小値出現日時: H26年6月12日13時 597nGy/h

点検校正に伴う測定: H26年5月27日, 6月7日

空間線量率の変動グラフ

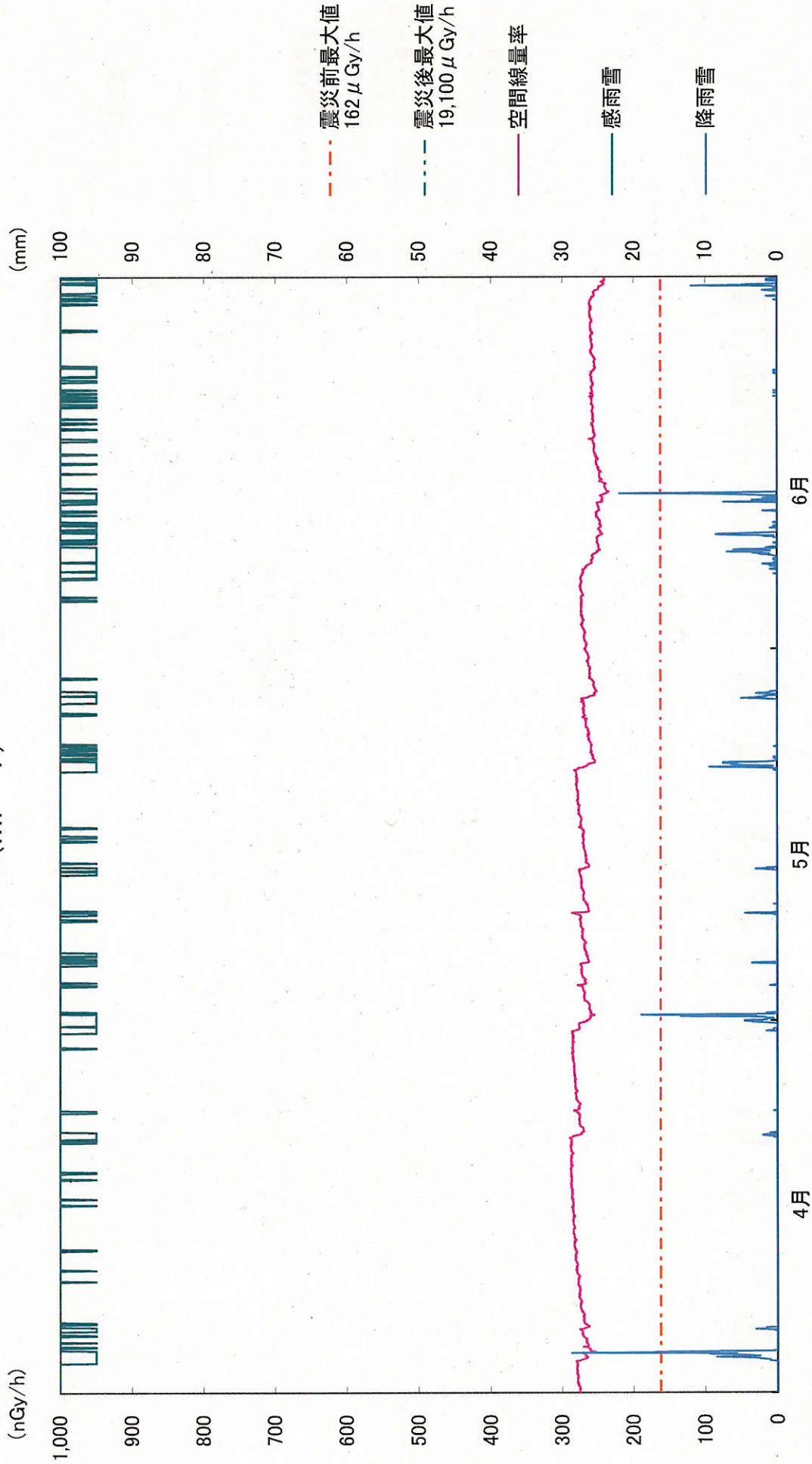
(MP-6)



H26年度第1四半期 最大値出現日時:H26年4月21日14時, 5月9日17時 329nGy/h  
 H26年度第1四半期 最小値出現日時:H26年6月12日13時, 14時 263nGy/h  
 点検校正に伴う欠測定:H26年5月28日, 6月11日

空間線量率の変動グラフ

(MP-7)

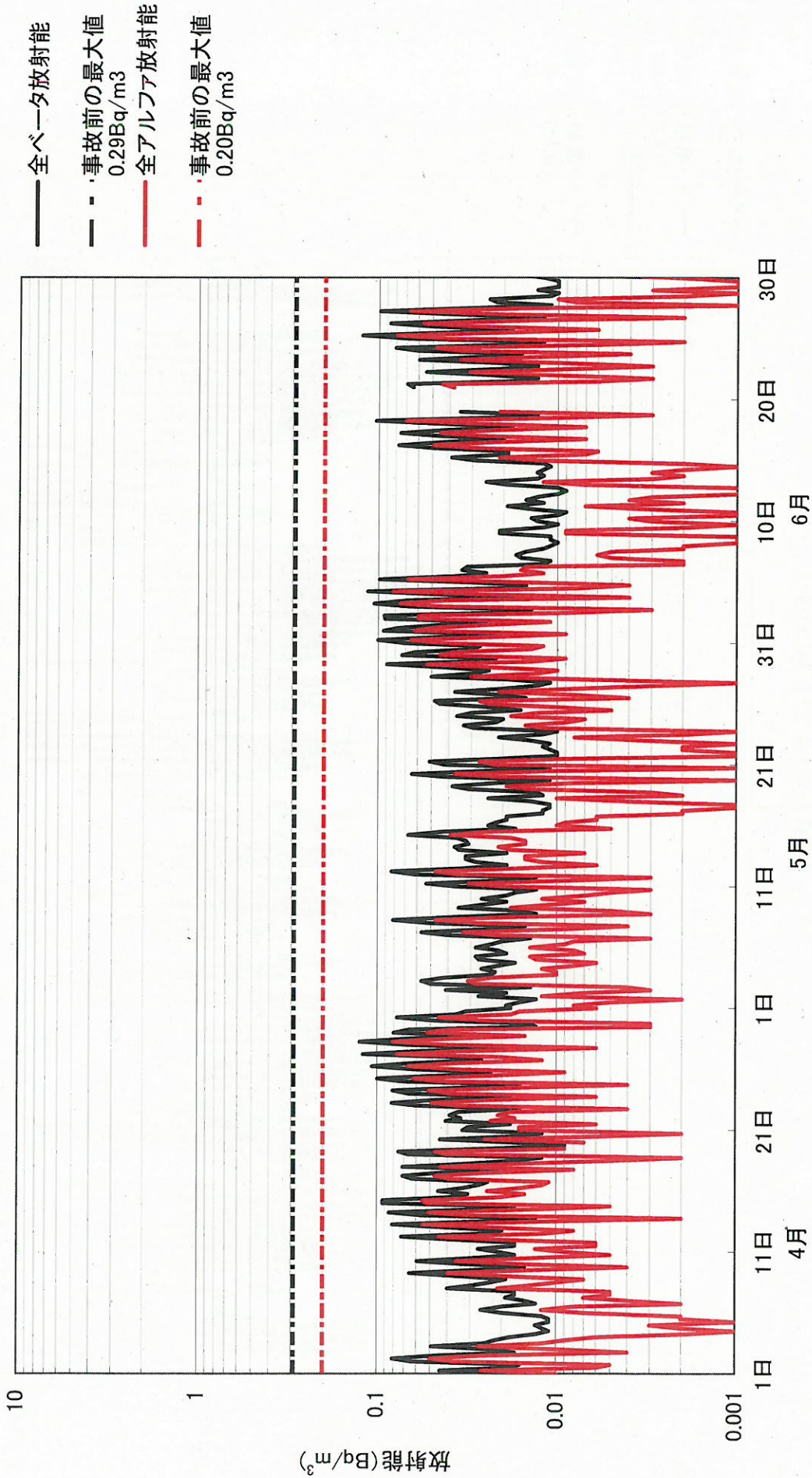


H26年度第1四半期 最大値出現日時: H26年4月21日13時, 14時 289nGy/h  
 H26年度第1四半期 最小値出現日時: H26年6月12日16時 234nGy/h  
 点検校正に伴う欠測定: H26年5月29日, 6月12日



# 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

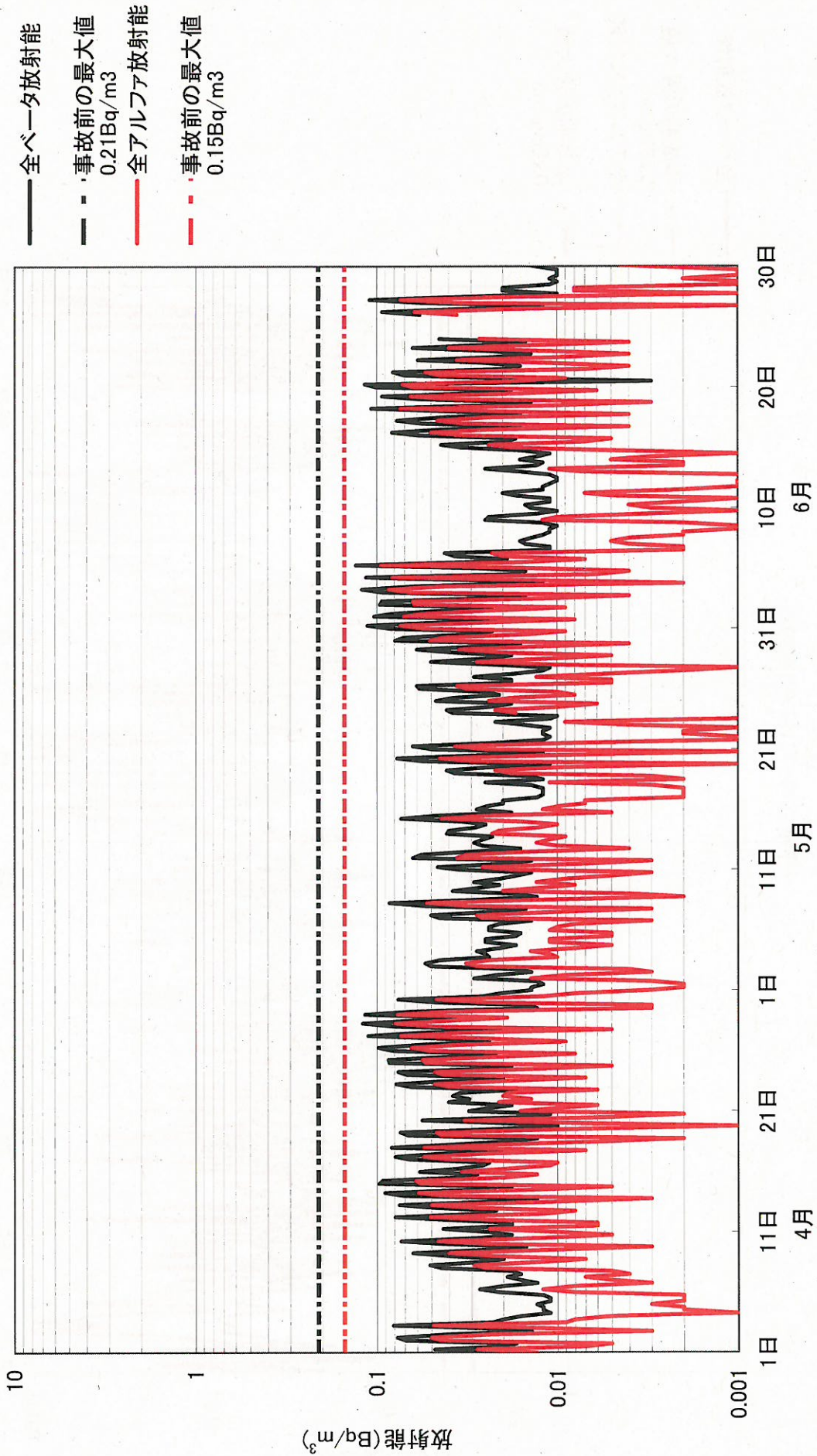
MP-1  
(平成26年4月1日～6月30日)



点検に伴う欠測：H26年8月19日、20日

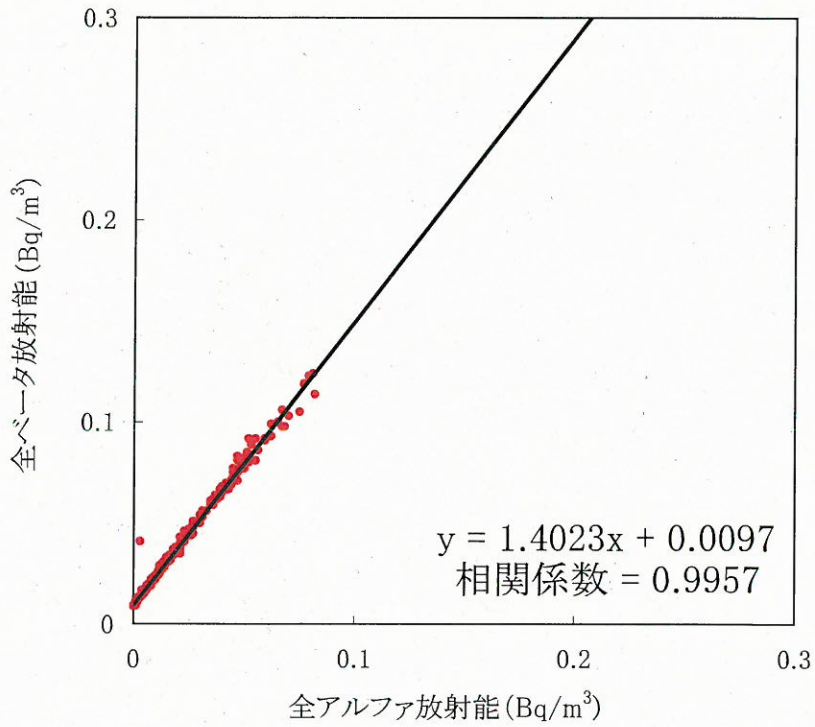
# 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

MP-7  
(平成26年4月1日～6月30日)



点検に伴う欠測: H26年8月24日, 25日

大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
(MP-1)  
(平成26年4月～6月)



大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
(MP-7)  
(平成26年4月～6月)

